

グローバル時代に向けて

私は、以前ジャカルタ日本人学校に派遣されました。そして、20年後にシンガポール日本人学校に赴任しました。その間に、予想もつかなかったことが起こりました。東日本大震災・テロ・温暖化による異常気象などです。また、スマホや人工知能の発達にも驚きました。ジャカルタ時代は、毎月15通くらい日本や海外の知り合いに手紙を書いていた。国際電話も高額な料金を気にしながらかけていました。ところが、今は無料でライン電話ができます。Eメールであっという間に通信を送ることができます。だから、もう273通にもなりました。特に、好きな囲碁の世界で名人が人工知能に負けたのは衝撃でした。このように未来を予測してみると、もしかしたら先生の仕事も人工知能に代わられているかもしれません。では、これから生きるには何が必要でしょうか。それは、物事の本質を知り、短い言葉で分かりやすく話すことができるという力です。常に、社会情勢を広い視点から判断し、今自分は何をするべきかを考えることが大切です。海外での生活は、それ自体がストレスで苦労はありますが、その国の文化や言語などを吸収しグローバル能力を身に付ける良い機会です。だから、狭い日本人社会の中にどっぷりと浸かっているのではなく、積極的に現地の人々と交流し、文化にふれる体験を増やしていかなければならないと思います。何歳になっても、自ら学び、自ら考え、チャレンジして成長し続けていくことが大切だと考えています。

ありがとうシンガポール

3年前にシンガポールに赴任が決まって、少しがっかりした気持ちもありました。それは、すでに何回も旅行していることと、あまりに小さい国なので飽きてしまうだろうと思ったからでした。しかし、今はすごく感謝しています。文部科学省の派遣では、シニアの男性が最初から単身赴任という例は私が初めてだったと思います。もちろん、家族に何かあって仕方なく途中から単身になった方はおられるかもしれませんが、多分、文部科学省も任期途中でリタイヤしないか心配していたと思います。そういう意味で、シンガポールはジャカルタと違って、公共交通機関を利用し自由に動き回れます。また、ホーカーセンターなどで安全な外食が気軽に利用できます。医療面でも、日本系列の病院がたくさんあって安心です。だから、ジャカルタの時のようなチフスや赤痢にはかかりませんでした。つまり、第1に安心安全な先進国であったということに感謝です。

第2には、自然がたくさん残されているということです。このシンガポール便りでもお伝えしてきましたが、世界遺産のボタニックガーデンを始め、熱帯の大樹は日頃の激務で疲れた心身を癒してくれました。第3には、人に恵まれたことです。優秀で素直な子どもたち、知性に溢れた保護者、気心の知れた同期の仲間たち。また、日本で富山や仙台や土佐など、訪ねていく楽しみが出来ました。

1年目は校長、3年目は同僚の死という、悲しいこともありました。その時その一瞬を、大切に生きなければならないことを教えてくれます。そして、気持ちを言葉で伝えることの大切さも教えてくれます。できれば、日本でもお墓参りにも行きたいです。この3年間、周りの人に支えられ、無事に任期を全うできたことを感謝し、今後もシンガポールとシンガポール日本人学校の発展をお祈りします。そして、できればまだまだ完全に引退するのではなく、この経験をまた日本でも生かしてがんばっていきたいと思います。3年間どうもありがとうございました。



シンガポール便り 279

2018年3月31日 三好 隆志

シンガポールと日本

シンガポールの面積は約 720 km²で、東京 23区は約 620 km²です。人口はシンガポールが約 570 万人で、東京 23区は約 950 万人です。つまり、東京 23区とほぼ同じような面積に、約 6割の人が住んでいる感覚です。私が感じていた、シンガポールは高層ビルが建ち並ぶ近代都市であるとともに、半分の土地は自然を残している点が大きな違いだと思いました。いみじくも、今年のシンガポールオープンで初めてシンガポールを訪れたプロゴルファーの石川遼選手が、シンガポールの印象を日本人学校の同僚にインタビューされて、自然が多い東京だと答えたそうです。

さて、次に日本全体と国家予算同士を比べてみます。日本では歳出全体の 33% を社会保障費が占めています。次いで多いのが国債費の 23% です。つまり、日本は年金や医療など高齢化社会を支える費用と借金の返済にかかる費用が重い負担になってのしかかっているわけです。ところが、シンガポールを見ますと、社会保障費は 15% と日本の半分以下だし、国債費は 1% で実質的な借金の返済はないそうです。何と多いのは防衛費が 19%、そして教育費が 17% となっています。日本は、教育費はたったの 6% しかありません。最近のシンガポールのニュースでは、専門職としての教員がいかに大切な存在かを考え、賃金や労働条件の改善を図っているとのことでした。吉田松陰が「山は樹を以て茂り 国は人を以て盛なり」と言うように、未来の日本を豊かな国にするには、予算を 3倍にしてもいいくらいではないでしょうか。

次に、女性の社会進出を比べてみます。日本総合研究所が実施した 2015 年のアジア主要都市コンシューマインサイト比較調査によると、シンガポールの共稼ぎ率は 84% でした。その数字は、東京の 54% を大きく上回っています。しかし、共稼ぎだと家事や子どもの教育に時間を割けません。そこで活躍するのが、ドメスティックヘルパーと呼ばれるメイドさんです。シンガポール政府は、1978 年に女性の労働人口を増やす目的で、「外国人メイド計画」を立ち上げました。移民の許可要件を緩和し、フィリピンやインドネシアからの移民を受け入れたのです。その結果、当時 5000 人だったメイドは、現在約 22 万人まで増加しました。2030 年には、介護にも需要が拡大し、30 万人のメイドが必要だと予想されているそうです。シンガポール在住の日本人家庭は駐在員ですが、メイドさんを雇っている割合は非常に少ないです。しかし、永住している家庭では逆に多く見られ、通学バスの出迎えにピックアップポイントまで来ている人を見かけました。

チャンギ校の教育

チャンギ校の子どもたちは、大変優秀です。家庭が安定していて教育に熱心であり、学校に対し協力的です。そこで、子どもたちの能力をより高めるために、シンガポール日本人学校ならではの教育を考えています。1番は、海外にあるということを生かした国際理解教育です。現地理解教育を推進し、シンガポールの自然や社会、人に関する学習を充実させています。各学年が、自然公園や動物園に出かけて生き物や植物の観察をしたり、工場や港などに行つて物流のダイナミックな動きを体験したり、博物館や戦争記念館に行つて歴史や文化を学んだりしています。公用語である英語を、12の小グループの能力別クラスに分かれて学習しています。現地校交流は、その英会話など日々の学習と関連させるなど内容の質的な充実を図っています。この観点からも、クロスカリキュラムの学習や協同的な学習、アクティ



退学児童(3/5現在)	
日本公立学校	65人
未定	51人
日本私立学校	3人
インター校	12人
スライド	8人
139人	



ブ・ラーニング、反転学習など指導法を工夫し学ぶ意欲を高めています。高いレベルの学習能力に対し、体力運動能力は大きな課題があります。それは、バス通学や帰宅後の屋外での運動不足などによるものだと考えています。喫緊の課題である体力運動能力の向上意欲を喚起するため、チャンギ体操の導入やマラソンや縄跳びなどの運動の奨励、記録の認証などの指導法の工夫を進めています。そして、最後は日本人学校最大の7教室にもある特別支援通級教室や、校内就学指導委員会を中心に、全学級における特別支援教育の充実です。他にも、子どもたち1人1台体制になるクロムブックを活用したICT教育の充実や、道徳教育や人権教育の充実などにも積極的に取り組んでいます。これからも、あれもこれもという詰め込みにはならないように気を付けながら、持続可能な社会の担い手として、夢を抱き自らの可能性を伸ばし、豊かな国際感覚をもち世界の人々となつなろうとする子の育成をめざして頑張ってもらいたいと思います。



つく
作ってみよう

今回は、インド料理の定番タンドリーチキンの作り方を紹介します。シンプルでもよし、お好みのスパイスでアレンジしてもよし。簡単にできるので、ぜひご家庭でお気に入りの味を発見してみてください。

Tandoori chicken (4人分)

- 鶏もも肉(骨付き) 4本
- プレーンヨーグルト 200g
- カレー粉 大さじ4
- おろしんにんにく 1片
- おろしショウガ 小さじ2
- コショウ 適量
- トマトケチャップ 大さじ4
- はちみつ 大さじ1
(以下、お好みで)
- パプリカ粉、クミン、マスターシード、カルダモン、ターメリック、レッドペッパー、グローブ、ガラムマサラなど)
- サラダ油
- バターまたはオリーブオイル
- ビニール袋



}

A

作り方

1. Aをすべて同じボールに入れて混ぜ合わせる。
2. 鶏もも肉にフォークで数か所穴をあける。
3. ジップロックなどのビニール袋に1, 2を入れて揉み込み、30分以上寝かせる。
4. サラダ油をフライパンにひき、漬けた鶏もも肉を中火でふたをして焼く。こんがりとなったら、ひっくり返す。
5. 両面焼けたら、仕上げにバターかオリーブオイルを入れて、再び軽く焼いて完成。



チャイニーズ ニュー イヤー

シンガポールのChinese New Year

今年^{ことし}は、2月16~17日^{がつ}が「春節」^{にち}（旧正月^{しゅんせつ}）にあたり、一年^{いちねん}で最大^{さいだい}のイベント^{イベント}となりました。学校^{がっこう}では、各教室^{かくきょうしつ}に縁起^{えんぎ}の良い赤い飾り^{あかひ}を飾り^{かざ}たり、ライオン・ドラゴンダンス^{ダンス}を間近^{まぢか}で鑑賞^{かんしょう}したりして、異文化^{いぶんか}を体験^{たいけん}してきました。シンガポール日本人学校^{にほんじんがっこう}の子どもたちからは、「アンパオをもらったよ。」「家の近く^{ちか}でライオンダンス^{ダンス}を見たよ。」「チンゲイパレード^{パレード}を見^みに行ったよ。」など、様々^{さまざま}な声^{こゑ}を聞きました。今回^{こんかい}は、その中^{なか}でも「チンゲイパレード」について詳しく紹介^{しょうかい}します。
【ショッピングモールでのライオンダンス】



チンゲイパレードとは

中国正月^{ちゅうごくしやうがつ}のイベントであり、東南アジア最大^{とうなんさいだい}のストリートパレードです。「チンゲイ」という言葉^{ことば}は、福建語^{ふっけんご}で「コスチュームと仮装^{かそう}の芸術^{げいじゆつ}」を意味^{いみ}し、漢字^{かんじ}では「粧藝^{しやうぎ}」と記します。その昔^{むかし}中国本土^{ちゅうごくほんど}では、新年^{しんねん}を祝うために飾り付けた山車^{かざつ}を日本の神輿^{しんこし}のように肩^{かた}に担いで通り^{かた}を歩いたり、大きな動物^{おおどうぶつ}を歩かせたりしたと言われていいます。これが「チンゲイ」のルーツです。

また、建国^{けんこく}以来^{いらい}シンガポールでは、中国正月^{ちゅうごくしやうがつ}の時に爆竹^{ぼくちやく}を盛大^{せいたい}に鳴らしてお祝い^{いわ}するのが当たり前^{あたりまえ}でした。ところが、過去の事故^{かこじしご}が原因^{げんいん}で、爆竹^{ぼくちやく}が法律^{ほりつ}で禁止^{きんし}されてしまいました。しかし、お正月^{しやうがつ}は盛大^{せいたい}にお祝い^{いわ}したいという当時^{とうじ}のリー・クアンユー首相^{しやうせい}の願いにより、チンゲイパレード^{パレード}を行うようになったようです。パレードは、最初^{さいしょ}はオーチャード^{おーちやーど}の路上^{ろじやう}で行っていたようですが、現在^{げんざい}はシンガポールフライヤー^{ひろば}のそばの広場^{かんらんせき}で観覧席^{くわんらんせき}を設けて行われるようになりました。

日本人会^{にほんじんかい}でも、2003年^{ねん}からパレードに参加^{さんか}しています。

今年^{ことし}も、チャンギ校^{ちやんぎこう}の子ども達^{たろ}やお父さん^{おとうさん}、お母さん^{おかあさん}、先生^{せんせい}方も一緒に踊り^{おど}ました。今年^{ことし}のチンゲイパレード^{パレード}のコンセプト^{コンセプト}は「Cultural Funtasy!」であり、日本人会^{にほんじんかい}のテーマは「Culture & Sounds of Japan-The Past, The Present, The Future」でした。音楽^{おんがく}は音声合成システム^{おんせいごうせい}「初音ミク^{はつね}」で制作^{せいさく}し、衣装^{いしやう}はアニメのキャラクター^{キャラクター}をイメージしたデザイン^{デザイン}となっていました。2月23・24日^{がつ}がパレード本番^{ほんばん}でしたが、たくさんのチャンギっ子^{ちやんぎこ}が応援^{おうえん}に来てくれました。



パレードには、世界^{せかい}からたくさんの国^{くに}のチーム^{さんか}が参加^{さんか}しました。住んでいる場所^{ばしょ}や言葉^{ことば}は違^{ちが}っても、ひと^{ひと}つの目標^{もくひょう}に向かって頑張^{がんば}ることのすばらしさや楽しさ^{たのしみ}を実感^{じっかん}しました。ほんの少し^{すこし}勇気^{ゆうき}を出すこと^{こと}で、見方^{みかた}や考え方^{かんがひ}が変わり^かわり、世界^{せかい}が広がります。せっかくシンガポール^{ひろ}にいるのだから、今^{いま}ここでしかできないこと^{こと}にどんどんチャレンジ^{チャレンジ}していきたいですね!

タイプーサム



とにかくすごい数
の人でした。

孔雀の羽根のよう
なカバディです。

人々は、鮮やかな色の服を着て、花飾りを首から
かけて、お祝いをしています。

みなさんは、「タイプーサム」というお祭りを知っていますか。タイプーサムは、ヒンドゥー教の伝統的なお祭りです。ヒンドゥー教の神様を称え、感謝し、神様をお願い事をするためのパレードのようなものです。このお祭りは、「苦行」と言われています。なぜなら、体中に長い鉄の針などを刺し、町をねり歩くからです。その際に、ミルクの入ったポットを頭の上に載せたり、「カバディ」と呼ばれる1人用の神輿を担いだりして歩きます。

体中に針を刺し、カバディを担いだ人々は、家族や仲間と共にパレードに参加します。パレードのスタート地点であるスリ・スリニバサ・ペルマル寺院（最寄駅MRT ファラーパーク）から、セラングーンストリートを通り、イスタナ近くにあるゴール地点のスリ・タンダユタパニ寺院（最寄駅ドビーゴート）まで歩きます。

今年のタイプーサムの様子を潜入調査してきました。スタートのお寺から始まり、町中人々の行列ができていて、物凄い熱気に圧倒されました。写真を紹介します。



寺院は、体に針を刺す準備
をする人々で溢れています。

針を刺す前には、仲間
に激励され、寺院で儀式を
します。

ミルクのポットです。これを
頭の上に載せて歩きます。

来年2019年のタイプーサムは、1月21日頃に開催予定です。このお祭りは、現在では本来行われていた発祥の地インドでは危険なため禁止されていてもうありません。インドのタミル地方からの移住が多い、マレーシアとシンガポールだけで行われているそうです。だから、この祭りが行われる時にいることができる人は、ぜひ参列してみたいかたがでしょうか。ヒンドゥー教を体感できる貴重なチャンスです。針を刺す苦行がどのようなもので、信者たちの熱気がどれほどのものかご覧ください。

Pongal

ポンガルというのは、南インドの主にタミル・ナーデゥ州を中心に行われる収穫祭のことで、家畜や農業に従事する人たちの労をねぎらい、その年の豊作を4日間にわたりお祝いする行事です。太陽神で生命を与える神「スーリヤ」に、豊作の恵みに対する感謝を捧げます。シンガポールには、南インドからやって来ている人たちも多く、その祭りがリトルインドで行われていました。

ポンガルは、砂糖とミルク、カシュナッツやレーズンなどを入れてお米を煮込んだ甘いお粥のような料理です。この祭りには欠かせないもので、ポンガルは「沸き立つ」「吹きこぼれる」という意味があって、お粥が吹きこぼれる様子は繁栄や平和や幸福を象徴しているのだそうです。人々は、この料理を作りながら、お粥が吹きこぼれるたびに、「ポンガロー、ポンガル！」と歓声を上げていました。右の写真は、ポンガルを炊くための、かわいい模様が描かれたカラフルな壺です。

また、1月中旬のポンガルシーズンが近づくと、飾りつけに欠かせないサトウキビがたくさん売られています。さしずめ日本のお正月の門松といったところでしょうか。甘いものを食べると、みんな笑顔になると思いますが、サトウキビの甘さには「幸福を呼ぶ」という意味も込められているそうです。お祭りの日には、その場でサトウキビをみんなに振る舞っている様子も見られました。そして、インドで家畜というと牛を思い浮かべますが、リトルインドでも装飾された牛を間近に見ることが出来ました。牛は、インドでは生活と密接に関わっていて、ヒンズー教信者の間では神聖な動物として崇められています。畑を耕してくれたり、乳を搾ればミルクやチーズが作られたり、

そんな牛への感謝を込めて、牛を洗いカラフルな化粧や首飾りなどを装飾し、敬意を表していました。本場のインドでは、女性は艶やかなサリーを身につけ、香しい生花を髪に飾り、おめかししてお祭りに出かけるそうです。そして、夜は移動遊園地やダンスパーティーが各所で催され3日間は休日となり、銀行や学校はお休みだそうです。家族・親戚一同が集まって賑やかに祝いをしたり、最近では海外旅行などをしたりすることも多いそうです。



チャイニーズニューイヤー伝説

チャイニーズニューイヤーの謂れは、中国の民族伝承に登場する伝説の野獣「年」ニエンだそうです。この野獣は、春が訪れるたびに、村々を襲っていました。人々は、せつかくの春にもかかわらず、ニエンが来るため山に逃げなければなりません。そんなある日、ある男性が村にやってきました。彼は、人々を救うために村全体を赤色の紙で村中を覆いました。そして、ニエンを赤い服と大きな音で追い払ったのです。このような言い伝えによって、このお祭りの時には、ニエンを追い払うために赤色の装飾をし、いたるところで爆竹を鳴らす習慣があるそうです。でも、シンガポールでは最近、爆竹音を鳴らすことが禁止され、電子音で鳴らしているようです。

また、街にはパイナップルがあふれています。色も黄色や赤色で、とても目立ちます。これは、「パイナップル」の発音が、福建などの中国語の方言で、「繁栄の訪れ」という音に似ているので縁起が良いことから始まったそうです。他にも、マンダリンオレンジがよく飾られ、紅包（アンパオとってお年玉のような物）を用意して親戚などを訪ねるそうです。そして、縁を担いで偶数用意したオレンジを交換し合うそうです。



シンガポール便り 273

2018年3月26日 三好 隆志

シンガポールは多民族の国ですが中国系の人が70%以上を占めるため、街を歩いているとその影響がいろいろなところに見られます。その中の一つ、シンガポールの風水について探ってみましょう。

『風水』って何？

『風水』というのは、土地の形や水の流れなどを考えて、その土地の持つエネルギーを上手に使おうという、古くから伝わる古いのようなものです。シンガポールは国が発展することを祈って、街をつくる時に風水を取り入れているそうです。中でもエネルギーの流れを表す「龍脈」は、特に大切だと考えられているそうです。

MRTと1ドルコインのひみつ

風水の考えによると、シンガポールには東西南北と中心に5匹の龍が住んでいると言われています。1980年代にMRT(地下鉄)をつくる工事を始めた時、この工事によって2匹の龍脈が切られてしまい景気が後退したそうです。そこで、どうやったら国民を守れるか考えた結果、「国民にお守りを持たせよう！」ということになりました。しかし、他民族の国であるシンガポール、民族や宗教に関わらず全ての人が持つことのできるお守りは何か…。考えられた結果、1ドルコインに風水では大変縁起がいいとされる八角形の模様(八卦図)を入れ、みんながお守りを持つことができるようにしたのです。そしてそのコインを使ってMRTのチケットを買ってもらうことで、切られてしまった龍脈がなおっていくそうです。



マーライオンにも風水

シンガポールのシンボルともいえるマーライオン。地元の人たちにとっては国の守り神ともいえます。1972年に作られた当時は、現在の場所から120メートルほど離れた場所に建っていました。しかし2002年、マーライオンの前に橋が架かり、それによってマーライオンの持つパワーがダウンしシンガポールの経済を狂わせる、といわれたそうです。「国の経済力がダウンしてしまうと大変だ!」と、橋から離れた現在の場所に移動し、さらに財力をあらわす「水」が吹き出すポンプを強化して、繁栄を表す「東」に向かって水を出すように設置しなおされました。このマーライオンの移動の時ですが、マーライオンを横に倒してはいけないとそのまま運んだため、たった120メートルほどの移動なのに3時間近くかかったそうですよ。



マリーナエリア

シンガポールの観光地の一つ、マリーナエリアには世界一大きな噴水「ファウンテン・オブ・ウェルズ(富の噴水)」があります。この噴水は5つの高層ビルに囲まれています。実は、この5つの高層ビルとファウンテン・オブ・ウェルズ全体で左手の形となっているのです。それぞれのビルは手の指に見立てられ、手のひらに当たる中心に噴水を置くことで、手のひらからとどとど富が沸いて出るという状態を表しています。また、噴水はリングの形をしており、財力をあらわす「水」が内側に流れ落ちることで、富が逃げないということを表しています。このギネス



ブックにも登録されているファウンテン・オブ・ウェルズですが、右手で噴水の水に触れながら時計回りに3周すると願いが叶うといわれているそうです。試してみたいですね。

もう一つ、マリーナエリアの観光といえば、高さ170メートルの大観覧車、シンガポールフライヤーがあります。このシンガポールフライヤーにも風水が関わっています。開業した当時、シンガポールフライヤーは今とは逆に回転していました。しかし「西から上がって東に沈むのでは太陽の動きと逆になってしまい、幸運がシンガポールから逃げてしまう。」という考え方から修復され、現在の回転になりました。



もうじ 数字のひみつ

風水では数字も大変重要な意味を持ちます。どんな数字が縁起の良いとされるのでしょうか？シンガポールを歩くといろいろな数字が隠れています。いくつか紹介してみましよう。

- ★ マリーナ地区にあるホテルは、ビル全体に縁起のいい『1』と『3』の数字がデザインされています。
- ★ マリーナバラージ（貯水池）のビジターセンターは、空から見ると『9』という数字が浮き出ているように見えます。「長く永久に続くように」という願いが込められています。
- ★ シンガポールフライヤーのカプセルは28個、一つのキャabinは定員28名となっています。これは、『28』という数字が大変縁起がいいということで取り入れられているそうです。



このほかにも、施設がオープンする日を縁起のいい数字が並んだ日にしたり、建物の高さを縁起のいい数字にそろえていたりしているようです。

普段何気なく見ているシンガポールの町並みに、意外な形で風水の考え方が取り入れられていることがわかりますね。「シンガポールが発展していきますように」という願いが込められている風水なので、この国に住む人みんなに幸せが訪れるといいですね。



シンガポール便り 272

2018年3月26日 三好 隆志

普段あまり気にしていませんが、私たちはたくさんのマークに囲まれて生活しています。それは日本でもシンガポールでも同じです。マークとは、記号、符号、しるし、図案のことです。マークには見てすぐわかる意味があります。それでは、シンガポールで見かけるマークを紹介しましょう。

☆ 交通に関係するもの ☆

マークと言ったら道路標識（交通標識）を思い浮かべますが、車を運転しない人々たちにより関係のあるバスやMRTについてのマークを紹介しましょう。

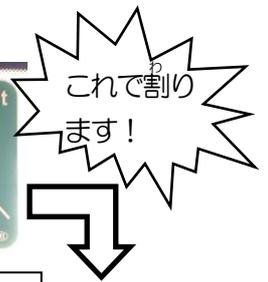
1. バス



バス停のマーク。止まるバスの番号なども記されています。



床や天井に気をつけて！



事故や故障などで外に出られないときにガラスを割ります。



バリアフリー対応バスについているマーク。バスの床が下がり車いすが乗れるステップが出てきます。ただしこのボタンは運転士の方が操作します。

2. MRT



お年寄りや妊婦さん、けがの方などの優先のせきです。見かけたらゆずってあげましょう。



おる人優先です。乗る人は横で待ちましょう。



これはマークとごまかしの絵ですが、「身長の0.9mより小さい子どもは無料です」という意味です。



すきまに落ちないように！

クイズ①



左のマーク（絵）は、電車の中でのマナーを教えています。さてどんなマナーでしょうか？

<答えは右下>



駅の構内や電車の中では、飲み食いやタバコをすることはできませんし、(ものを燃やす)燃料やガスの持ち込みもできません。見つかったら罰金です！飲んだだけで5000ドル・・・。



ドアに寄りかかったり、手を当てたりしないで。

クイズ②



MRT駅の表示板は英語、中国語、タミール語で書かれています。左の2つの表示板はどこの駅でしょうか？英語はかくしてあります。
〈答えは下〉

☆ 身の回りの生活に関するもの

知っていたら生活に役立つマークが他にもたくさんあります。

1. もしもの時に・・・



美術館のものは、白と銀色でおしゃれでした。



AEDがあります。学校ではどこにあるか知っていますか？

소화器があります。

ホースはここです。



非常口のマークは日本と同じです。



↑このトイレマークが一番多いようです。

こんなものもありました。

2. リサイクル



シンガポールでは、まだまだゴミを分別せずにダストシュートにポイッと捨ててしまうことがほとんどです。しかし、リサイクルやリユースなどの活動が少しずつ広がってきています。左のようなマークは町中やコンドミニアムの中でも見られるようになってきています。日本では当然のようにやっていたことも、そろそろシンガポールでやる時期にきているのかもしれない。

★ 私たちの身の回りには、いろいろな危険から身を守ってくれたり、困った人を助けてあげたり、正しい情報を教えてくれたりする、人に優しいものなのですね。シンガポールには他にもたくさんのおもしろいマークがあります。ぜひ探して楽しいシンガポールの生活に役立ててください。

シンガポールの生活に役立つマークを教えてください。

トピックス

ホーカーセンター

ホーカーセンターでは、食べ終えた食器やトレイは係の人が片付けてくれます。片付けるスタッフはお年寄りが多く、それで雇用が成り立っている面もあります。だから、そのまま置いておくのがシンガポール人の一般的な流れです。しかし、近年は政府主導で食器を返却するよう促すキャンペーンが行われているので、返却棚が見当たれば食器とトレイを戻すようにしています。写真は、最近できたばかりのパシリスホーカーセンターです。ここは、すごく立派な返却カウンターがありました。左右に分かれているのは、イスラム教のハラール料理か、中華系の豚肉などを使ったノンハラール料理かを仕分けしたものです。さて、下の写真は何と片付けロボットです。トアパヨの MRT 駅に直結したホーカーセンターで見付けました、合計4台が、ホーカーセンター内を巡回して、食べ終わったトレイを回収していました。もちろん、食べ終わった人が近づいてきたロボットのお腹の引き出しに収めるわけですが、回収場所まで行かなくて良いし、人々の啓発にもなっていると思いました。このロボットは、「スマート・トレイ・リターン・ロボット (smart tray return robots)」と言うそうです。2017年からトアパヨでは稼働していて、シンガポールの地元企業が開発したロボットらしいです。トレイを返そうと目の前に立つと、きちんと停止しました。しかも、Thank you! Excuse me! など話していました。そして、トレイがいっぱいになると、回収場所まで持って行っていました。これで、クリーナーさんは、テーブルの上の片付けなどに集中できるそうです。



帰国

私は、3月21日の全日空で本帰国しますが、シンガポール日本人学校の子どもたちの多くは、年に1~2回一時帰国しています。時期は、夏休みや春休みの約1カ月か、冬休みの2週間に帰国しています。ただ、会社から経費が出る場合もありますが、自費の場合はハイシーズンにあたります。普段は、6万円くらいから羽田空港発の JAL や ANA が取れますが、その2倍から3倍に跳ね上がってしまうので、すごく早くからネット予約する人が多いです。

さて、一時帰国の目的ですが、順番に並べてみますと「家族・友人に会う」、「仕事」、「買物」、「公的手続き」、「教育」、「国内旅行」、「治療・診察」などとなっています。1位の「家族・友人に会う」ことに適した年末年始の一時帰国が、割合としては最大になっています。「買物」で購入するものは、食品が圧倒的に多いようです。シンガポールのように、高くても日本のものが溢れている国は珍しいのです。次に、医薬品やファッション用品と続きます。

それから、日本での宿泊先はどうでしょうか。日本に自宅がある人が、半数余りになります。自宅を処分したり、アパートやマンションを引き払ったりして自宅が無い場合、実家が半数近くで、他の人はホテルなどに宿泊することになります。最近都心では、家具付きマンスリーマンションや清掃やフロントなどホテルのような機能があるサービスアパートメントが人気だそうです。

最後に、帰国している時に利用するサービスとしては、レンタカーや Wi-Fi・携帯電話レンタルがあります。レンタカーは、1週間以上で半額くらいになる長期間割引ができますが、相当早くから予約しないと確保が難しいようです。帰国後に購入する車種を試乗するというちゃっかり屋さんもいるそうです。日本人学校に長く在籍していて、日本での経験が少ない家庭は、京都や奈良や北海道などの国内旅行を楽しんできたという話をよく聞きました。



シンガポール便り 270

2018年3月24日 三好 隆志

シンガポールには「世界一」と呼ばれる建物や施設がいくつかあります。今回は、シンガポールにある「世界一」をみなさんに紹介します。

チャンギ国際空港が世界一

シンガポールの玄関口であるチャンギ国際空港。2017年の利用者数が過去最高を記録したことが明らかになっています。チャンギ国際空港は年間約6000万人が利用し、60以上の国・200以上の都市と結ばれているなど、世界の空港と比べても大きな空港の1つと言えます。空港の中には、レストランや郵便局、シャワー・サウナに礼拝堂、映画館まであります。空港を利用する人を飽きさせない工夫をしているチャンギ国際空港は、世界一快適な空港2017（英航空サービスリサーチ会社による）に選ばれています。これは、5年連続になる快挙だそうです。また、空港第一ターミナルには、世界最大の動く彫刻も展示されています。

※日本の羽田空港が第2位にランクインしています。



観覧車が世界一

次は、マリナーエリアにあるシンガポール・フライヤー。高さが165メートルもあるこの観覧車は世界最大。お客さんを乗せるカプセルは全部で28個あり、1個のカプセルに最大28人乗ることができます。カプセルの中では、飲食することができ、結婚式や誕生日パーティー等で利用する人もいます。約30分かけて1周し、その間にシンガポールの街はもちろん、晴れた日にはマレーシアやインドネシアの島々まで見渡すことができます。この世界最大の観覧車をデザインしたのは、日本の会社。カプセルも日本の会社が制作しています。世界最大の観覧車は、日本の高い技術が詰まっているのです。

※日本では、東京都にあるダイヤと花の大観覧車(117メートル)が第10位にランクインしています。



紙幣が世界一

日本のお金は、1万円札が最高額ですが、世界で1番高いお金はシンガポールの1万ドル札です。1万ドルは日本円で約81万円。(2018年3月現在) 持っただけで、手が震えてしまいそうです。



プールが世界一

続いてプールの紹介です。世界一のプール!? 世界一大きいプールは、チリ南部海岸のリゾート地にあり、その長さは、1013メートルもあるそうです。チャンギ校のプールは25メートルなので、その約41倍の大きさです。世界一深いプールは、ベルギーのブリュッセルにあり、その深さは35メートル。チャンギ校低学年プールの深さは、85センチメートルなので、その約41倍の深さです。2010年にオープンしたマリナー・バイサンズの屋上にあるインフィニティープールは、世界一高い場所にあるプールです。地上から約

200メートルの場所にあるこのプールは、全長150メートルで3900人を収容し、屋上プールとしても、世界最大級です。シンガポールの景色を見ながら、まるで空を泳いでいる感覚を味わうことができるそうです。

このマリーナ・ベイサンズを建てるのに約5355億円のお金がかかっています。世界一高い場所にあるプールをもつマリーナ・ベイサンズは、建築費も当時は世界一だそうです。

※現在はサウジアラビアのアブラージュ・アル・バイト・タワーズに次いで2位だそうです。



水族館が世界一

2012年11月にセントーサ島にオープンした水族館「マリン・ライフパーク」も世界一をもっています。この水族館の総水量が約4280万リットルで世界一。水族館内のメインアトラクション「シー・アクリアム」では、約10万匹以上の海洋生物を見ることができ、その水槽パネルの大きさも世界一。幅36メートル、高さ8.3メートルの巨大パネルは、海底散歩気分を味わわせてくれるそうです。この世界一の巨大パネルを制作したのも、日本の会社。水族館にも日本の高い技術が詰まっているのですね。

また、世界一大きな水槽はアメリカのジョージア水族館にあり、その水量は23500トン。沖縄県にある「沖縄美ら海水族館」の水槽は、7500トンで世界第3位にランクインしています。



まだまだあるよ！世界一

空港や観覧車、水族館などの様々な世界一を紹介してきましたが、シンガポールにはまだまだ「世界一」と呼ばれるものがあります。2014年には、シンガポールで850件の国際会議が開催され、開催件数が世界一となっています。また、シンガポールのチュアス工業地域にある、ごみ焼却設備は、1日約4320トンという世界最大の処理能力をもっています。この設備を作ったのも日本の会社です。

暮らすのには、残念な世界一もあります。イギリスのエコノミスト誌の調査部門、エコノミスト・インテリジェンス・ユニット（EIU）が毎年発表している報告書によると、シンガポールは2017年までここ4年間にわたって「トップ」を維持しているそうです。EIUは食料品から公共料金、住居費まで160のカテゴリーに含まれる商品とサービス、合わせて5万品目の価格・料金を比較した結果をまとめ、順位を割り出しています。最新のランキングで上位に入った都市は、2位が香港、4位が東京、7位がパリ、9位がニューヨークなどになっていました。

それから、シンガポールは国際学習到達度調査で世界一位を独占しています。PISA（International Student Assessment）は経済協力開発機構（OECD）が実施しているそうです。2015年度にシンガポールは、調査対象の3教科とも参加72カ国の中で世界一位という結果でした。3教科とは、読解力と数学的リテラシーと科学的リテラシーだそうです。ちなみに日本は、科学的リテラシーが2位、数学的リテラシーが5位、読解力は8位だったそうです。

面積720平方キロメートルと小さな国ですが、たくさんの世界一があることがわかりました。また、そこにはたくさんの日本の高い技術が詰まっていた。そんなところにも、日本とシンガポールのつながりを感じることができます。シンガポールには、まだまだ「世界一」と呼ばれるものがあると思います。皆さんも是非、「世界一」を探してみてください。

トピックス

ラブラドル公園

シンガポール南端の Labrador Park に行きました。右の写真の海岸周辺の緑の部分、1周が2 kmほどの公園です。シンガポールには数多くの公園と4つの自然保護区があります。このラブラドル自然保護区には、シンガポールの固有種や絶滅危惧植物の約40%が生息しているそうです。岩場やマングローブなどにおよそ50種類の動植物、30種類以上の蝶や70種類以上の鳥類が生息しているそうです。散策中にたくさんの鳥の鳴き声が聞こえたり、素早く木を登るリスが見られたり、時にはオオトカゲに遭遇したりするなど、街では珍しい多種多様な動植物を目にすることができます。この自然を満喫するために、散歩やジョギングを楽しむ人たちが、休日にはたくさん訪れていました。また、写真のように、海釣りや子どもを連れてのピクニック、そしてバーベキューピットなどもありました。

さて、実はここラブラドルは、戦争の遺跡もあります。この公園の丘に砲台が建設されたのは1886年のイギリス植民地時代だそうです。要塞へと続く通路の壁は、昔のまま残されていました。その当時、新しく出来た港 New Harbour(Keppel Harbour)へのアジア進出を企てていたヨーロッパの国々の敵船侵入を阻むためだったそうです。セントーサのシロソ砦とこのラブラドル砦(Fort Pasir Panjang)で、敵の艦船を挟み撃ちしようとしたわけです。その砦が、実際に戦いの場に出てきたのは太平洋戦争です。もともとイギリスの仮想敵国は、西側から来るヨーロッパや北アフリカの国々でした。マレー半島は、その頃まだ一面ジャングルで、マレー半島北東からシンガポールまで陸路を来るのは不可能だと思われていたのだそうです。しかし、実際には日本軍がマレー半島へ侵攻した頃にはマレー半島の海岸沿いに道路が出来ていたため、イギリスは北側の防衛の重要性にも気付いたとのことでした。

ただ、実戦では連合軍の指揮系統がうまく回らなかったことと、大砲周辺のコンクリートの壁により、360度回転させるのが困難な大砲がたくさんあったからだそうです。写真の大砲は、6インチ砲です。この砲は、シンガポール市街北西側の軍用地の地下1mのところに埋まっていたものを2001年に発見されたものだそうです。ラブラドル砲台に当時配備されていたものとは型式が違うらしいのですが、この場所で展示されています。砲身にはガラスがはめ込まれていて、内側の線条を見ることができました。敵艦の装甲を突き破るための徹甲弾は、1門あたり500発備蓄していたのですが、地上に展開した歩兵を攻撃するための榴弾は50発程度だけだったそうです。この丘には、トンネルもありました。1886年に建設され、弾薬庫として使われたそうです。このような戦争の遺跡が、相手国を憎むことではなく、平和の大切さを訴えるものとして、熱帯雨林と共に大切にされていて、シンガポールは素晴らしい国だと思います。



トピックス

イスタナ宮殿

大統領官邸イスタナ宮殿は、シンガポールの中心オーチャード通りにあります。街の中心に広大な敷地をもつのは、日本の皇居に似ています。ちなみに、皇居は115haでイスタナ宮殿は40haだそうです。イスタナというのはマレー語で「宮殿」の意味です。だから、日本語では宮殿宮殿という意味になっておかしいですね。普段は厳重に警戒されていますが、チャイニーズニューイヤー（旧正月）の2日目、レイバーデー（労働者の日）、ナショナルデー（独立記念日）、ディーババリ（ヒンズー教の祝日）、ハリラヤ・プアサ（イスラム教の祝日）の年5回だけ一般の人にも内部が公開されます。私は、チャイニーズニューイヤーに行きました。朝一番の8時半に入るように30分前に行きましたが、もう数百人が並んでいました。入場には、国民は無料ですが、外国人は2ドル払います。また、小さい子どもを連れている人や、60歳以上の高齢者は優先で入場できます。私は、63歳だから並ばなくても入れたのですが、まだ若いつもりなので結局1時間近く待ちました。待っている時に気付いたのは、日本人の多さです。そこら中から日本語が聞こえてきました。やはり、4万人近くいて、この周辺の高級マンションに住んでいる人が多いことと、このようなイベントが大好きな国民性によるものだと思います。

入場したら、すぐに空港のような荷物検査がありました。まるで、植物園のような広大な庭には、ゴルフコースのような芝生が続いています。また、池があって白鳥が2羽泳いでいました。小高い丘の上にあるガンテラスには、戦時中の大砲が1台展示されていました。何と、日本軍が使用していた大砲だそうです。大戦後の解放のシンボルとして、ここに展示されているわけです。



大砲の他にも、噴水や子どもの遊び場や記念グッズ売り場、ドリンクやアイス売り場、自然教室などのコーナーがありました。そして、800mくらい歩くと丘の上にまさしく宮殿のような白亜の官邸が現れます。白亜の横長の建物は、ホワイトハウスに似ていますがコロニアル建築で英国統治時代の1869年に植民地政府の政庁として建てられたそうです。丘陵地帯の高いところに建設されているので、3階建てではありますが遠くまで見渡せるそうです。私たちは、4ドルを支払って入館出来ます。邸内には、各国から大統領に贈られた友好の品がずらりと並べられていて素晴らしいの一言です。しかし、残念ながら写真撮影は禁止されていました。まず驚くのがシャンデリアです。各部屋に数個ずつありました。衛兵に値段を聞きましたが、想像できないみたいでした。私が気に入った展示品は、クウェイトの帆船、フィリピンの民族屋敷、アルメニアの銀杯、サウジアラビアのラクダの置物、韓国の宝石入れ、スロベニアのティーセットなどです。日本の陶磁器も飾られていました。展示されていた絵画や置物などは、数えたら40カ国近くになりました。さすが国際国家ですね。



トピックス

温泉

2016年に、シンガポールでも"湯の森温泉&スパ"が開業しました。いわゆるスーパー銭湯です。ところで、日本では温泉と言われたら硫黄などを含んだ地下から源泉が出てこないといけません。この施設は水道水を沸かした所謂銭湯です。値段は、3000円あまりしますから、私もなかなか行けません。しかし、シンガポールにも本物の温泉があった1カ所だけあるということで、帰国を目前にして見学に出かけました。そこは、センバワン温泉と呼ばれ、マレーシアとの国境にほど近い「センバワン空軍基地」の中にありました。MRTのYishun駅から徒歩で約30分。何と空軍基地の敷地内にあるので、フェンスの中に入っていくことになります。空軍基地の中には、この一般に開放されている以外にも温泉が出ていて、兵士が疲れを癒しているそうです。さて、この温泉は W.A.B. Goodall という地方の森林警備隊 (Municipal ranger) によって 1909年にパイナップル畑の中から発見されました。発見後、この土地は中華系商人が所有しました。その商人は、この温泉を利用してビジネスができるのではないかと考え、温泉水をヨーロッパへ分析を依頼したそうです。その結果、飲用できることが分かり販売のために Singapore Natural Mineral Hot Springs Company を設立しました。(のちに Singapore Hot Springs Limited と名前を変更)。その後ボトリングの工場を設立し、“Zombun”の名で売られたそうです。1921年には、製品開発を進め、“Zom”、“Vichy Water”などの商品を販売しました。生産性の向上のため、1933年に最新鋭の工場を設立します。そして、1942年から3年間の日本統治時代は、日本人用の温泉が作られました。1944年、連合国軍の攻撃により温泉は破壊されてしまいました。写真のフェンスの中に残っているのは、日本軍が作って爆撃でも残った浴槽だそうです。長い閉鎖期間の後、1960年代にまた湯量が回復し1967年、F&Nが新しいボトリング工場を建設しました。その後、スパの建設も計画されましたが、実現はされていません。1985年、政府が軍の利用を目的にこの土地を買収しました。そして、地元住民の強い要望から、2002年にコンクリートや蛇口を敷設し、開放しているそうです。

釣り堀

以前、エビ釣りについてはレポートしたことがありますが、今回は魚です。場所は、パシリスというシンガポールの東端でMRTの終点駅を降りて300mくらいのところです。空港や学校からも20分くらいで行くことができます。写真のように、周囲が1kmくらいの池ですが、実は海水だったようです。海が1kmくらいの場所にあるので、海水が入ってきたのかも知れません。ずっと釣り用の椅子が並び、休日には何百人も訪れるそうです。値段は、餌のエビや釣り竿込みで2時間3000円くらいでした。リールで投げて底釣りのようにしていましたが、30cmくらいの魚が結構釣れていました。食べると美味しいそうです。実は、このパシリスには海浜公園があって、今年度は2回も校外学習で来ています。マングローブを楽しんだり、カワウソや野鳥やムツゴロウを観察したりして楽しみました。シンガポールは、このような自然もたくさん残っていて素晴らしいと思います。



シンガポール便り 266

2018年3月20日 三好 隆志

トピックス

ベンツ

シンガポールで一番売れている自動車は、ベンツ C クラスです。その値段は、2,000 万円近くする国です。ところが、写真のように HDB（公団）には多くのベンツなどの高級車が駐車しています。写真の HDB はベンツと同じ 2,000 万円です。日本人としては、マイホームと自動車の値段が同じというのは受け入れがたいものです。しかし、シンガポールの人々は初めから自動車とは高いものだと思っていることと、贈与税や相続税がないことなどにより、このような不思議な組み合わせになっているようです。



デング熱

シンガポールでは、毎年デング熱による死亡者数が数人出ているようです。しかし、マレーシアやインドネシア、フィリピンでは数百人が亡くなっていることを考えると、人口や医療レベルの違いからであるのと同時に、写真のようなフォギングの成果もあると思います。この写真は、貯水湖までボートに乗って散布している様子です。また、政府の取り締まりが厳しく、蚊の発生の元になる為「屋外に水を溜めておく」事すら罰金の対象になります。シンガポール日本人学校も、定期的に査察が行われ、下水で落ち葉が詰まっていたりすると厳しく行政指導がされます。街中やコンドミニウムなどでも、おおよそ週に1度定期的なフォギングと言われる殺虫剤の散布が行われるなど、徹底的な対策が行われています。デング熱にかかると発症は媒介する蚊にさされて 2~7 日程度です。主な症状は、38~40 度の発熱や頭痛、筋肉痛、発疹などが挙げられています。死亡率は 1%以下で、通常は点滴などの対症療法を行い、一週間ほどで症状は治まります。しかし、2 回以上感染すると違う血清（4 種類あります）だった場合、より重症な「デング出血熱」などに移行し、致死率も上がるそうです。



警察

学校の地域を管轄するベドック警察署から、4 人の警察官が来校し、1 時間の職員研修をしました。今年度は、不審者対応の避難訓練で、子どもたちにお話しもしてくれて、連携を深めています。ローカル校でも、このような取り組みを行っているそうです。また、犯罪防止のための出前授業もしているそうです。その流れですが、まず誰かのカバンが目の前にあり、その中に携帯電話や財布があったとして、あなたはどうしますかという問題を与えるそうです。子どもたちは、こっそりもらうという心と、届けようという心の葛藤を体験します。そこで、シンガポールでは盗んだ場合の結果を知らせることで、犯罪を思い留まらせるそうです。つまり、捕まって刑務所に送られることや家族に迷惑をかけること、犯罪歴がついて一生後悔することなどを思い浮かべさせるのです。また、逆に被害者にならないために、持ち物から目を離さないことや、貴重品をむやみに持ち歩かないことを注意させます。シンガポールでは、刑罰が厳しいことで有名ですが、学校での教え方も現実的だなあと感心しました。罰則については、電車で水を飲んだりドリアンを持って入ったりしたら 4 万円。公衆トイレで水を流さなかったり野鳥に餌を与えたりしたら 8 万円などとなっています。しかし、まずは注意されて、聞かなかったり何度も繰り返していたりしたらチケットを渡され、後で支払うことになるそうです。さて、日本では犯人を格闘により逮捕する時のために、柔道か剣道が必修で警察学校時代にどちらかを選択しているようです。ところが、シンガポールでは何と韓国のテコンドーを半年間の研修期間で習うそうです。そこは、どうして空手ではないのかと不思議に思いました。今日も、安全を守るため電車を見回ったり、車で街を巡回したりしている警察官に感謝したいものです。



トピックス

ターミナル行きバス

シンガポールチャンギ国際空港に新しくできたターミナル4ですが、他のターミナルが室内を歩いてでも行き来することができるのに対して、バスでの移動になります。驚くことに、一般道を走っていかなければならないのです。ただ、バスは新車ですし、待たずにピストン輸送をしているので不便は感じません。



キティーちゃん

チャンギ空港は、映画館やフィットネス、無料マッサージ機やたくさんのお店などとても便利ですが、「空港を利用する人たちに楽しんでもらおう！」というイベントもたくさんあります。この自動チェックイン機には、キティーちゃんがありました。他にも、マイメロディーやキララなどサンリオキャラクターがありました。ターミナル3には、ハローキティをテーマにしたカフェのハローキティ・オーキッドガーデン(Hello Kitty Orchid Garden)もあるそうです。料理や食器など全てがハローキティのデザインで、蘭が咲く庭園をイメージしたインテリアの中、朝食からメイン、ドリンクにデザートと幅広いメニューが楽しめ、24時間営業は世界初だそうです。



ジャックフルーツ

ジャックフルーツは、日本名で『波羅蜜(パラミツ)』と言うそうです。また、マレー語での呼び方ナンカから『南果(ナンカ)』と呼ばれることもあるそうです。日本人学校の校庭にも、写真のように幹から直接大きな果実がぶら下がります。大きさは、長さ50cm、重さ30kg以上になることもある世界一大きい果物です。熟した果肉は、強く甘い香りがして美味しいです。まだ熟していない甘みのつく前のものは、野菜のように扱われて炒めたり煮たりして食べます。私は、ココナッツで炒めたマレー料理が好きです。



バナナ

校庭の果物は、レモン・マンゴー・ドリアン・パパイヤ・マンゴスチンなどたくさんの南国産のものがありますが、写真はバナナとココナッツです。ココナッツは、落ちてきたら危険なので早めに取り入れておきます。どの果物も食べたいのですが、フォギングといって蚊を駆除するフマキラーのような薬を週1で撒き続けているため、その薬の成分が根や葉から吸収されていて健康面の不安があるため食べてはいけません。これは、学級園で育てているオクラやピーマン、トマトなども同じです。



メンテナンス

日本人学校のスタッフには、教員以外にローカルの事務員やセキュリティ、クリーナー、ガーディナーやメンテナンスがいます。みんなで30人近くにもなります。例えば、セキュリティは24時間体制で警備をしていて休日に行っても何人が出ています。そして、訪問者のチェックや通学バスの誘導、各教室の鍵の開き閉めまでやってくれます。ほとんどがマレー系の人たちなので、言葉が分かる私とは「サンパイジュンパベソック」つまりまた明日などとコミュニケーションが出来ます。写真は、この常駐スタッフ以外の休日派遣労働者です。これは、インド系の出稼ぎ外国人が多いようです。草取りや落ち葉の掃除、蚊の駆除や芝刈りなどを行っています。また、春休みなどの長期休業中は、トイレの改修や校舎のペンキ塗りなど、普段出来ないリフォームをする人たちがたくさん入って来ます。大きな学校なので、色々な人たちにお世話になっているわけです。子どもたちにもそのことを伝え、感謝の気持ちをもつように指導しています。



ミャンマー-6

19 カラス

日本で身近な野鳥というと、すずめということになるでしょうか。また、シンガポールではオオハッカという鳥になります。そして、ミャンマーではカラスが一番多いのです。特に、写真の公園に行った時には、何万羽というカラスがそこら中の木をねぐらにしているようで恐ろしかったです。餌を売っている人がいて、仏教の教えだと動物に対して善い行いをすると来世で徳のある人間に成れるとか言われているらしいのです。シンガポールでは、観光にマイナスのイメージだと駆除されているのに対して好対照でした。また、野良犬もたくさんいて、やはり餌をもらっているのかガツガツしていませんでした。

20 電車

ヤンゴンには、市内を3時間かけて走る電車があります。それが、何と日本製です。日本の JR などで使用していた車両が再利用されているのです。これは、トラックやマイクロバスなどもそうです。日本語を残しているのは、日本からの援助というのが分かるようにしているらしいです。全長が45kmほどを3時間もかけて走るわけですから、自転車くらいのスピードということになります。また、ホームが低くて飛び降りる感じですが、線路に下りてショートカットしている人もたくさんいました。料金は、20円くらいだそうです。

21 道路

インドネシアもそうでしたが、ミャンマーでも道路は大変危険です。それは、穴がよく開いているからです。電気事情が悪いミャンマーでは、夜間はとても暗いです。だから、観光客も穴に落ちて大けがをすることがあるそうです。また、交通事故も多いそうです。それは、マナーの問題もありますし、歩行者が横断しにくい道路になっていることもあるからです。写真のように走っている車の間を、みんな命がけで渡っていました。

22 パゴダ

写真のシュエダゴン・パゴダは、高さ100mのストゥーバがそびえ立っていて、市内のどこからでも時折見えるミャンマー仏教の総本山です。熱心な祈りを捧げる参拝者たちでいつもにぎわっているようです。建立されたのは、6~10世紀頃ではないかと言われていて、現在あるのは15世紀頃に完成したのだらうと考えられているそうです。黄金の塔が立ち並び豪華絢爛です。天気がよく日が照っていると

まぶしいし、夜はライトアップされて黄金が浮かび上がっています。ミャンマーのパゴダは、他もみんな黄金に輝いていました。また、パゴダだけではなく、無数に安置される仏像たちも写真のようにきらびやかな光をまとっていました。次の写真のスーレーパゴダは、市街中心にある八角形の細長いパゴダです。ストゥーバの高さは50mほどで、シュエダゴン・パゴダの約半分です。スーレーとは聖髪を意味し、ここにも仏陀の聖髪が安置されているといわれているそうです。最後は、チャウタジーパゴダです。高さ17.7m、長さ65.8mという巨大な寝釈迦仏があります。足の裏には108の煩悩を表わす絵がピンク色で描かれています。この絵は仏様が生まれてから死ぬまでもので、海や山、宇宙、地獄など森羅万象全てのものが仏様の下にあるという意味を表しているそうです。



ミャンマー-5

16 観光客

日本では、観光庁が2020年までに、訪日外国人旅行者数を4,000万人にする計画を立てています。ミャンマーでは、2017年に約350万人の外国人観光客が訪れたようです。その中で日本人は、約12万人だったそうです。ミャンマーは、物価が安い、治安が比較的良い、有名な遺跡がある、豊かな自然がある、多民族が織りなす多様な文化があるなど魅力的な国です。ミャンマーと日本との関係は非常に良好ですので、これからもミャンマーを訪れる人は増えていくことでしょう。



17 アウン・サン・スー・チー

ミャンマーは長い間、軍事政権で反抗する住民に銃を向けることもありましたが、それに対してスー・チーさんは、国民が選挙で選ぶ代表者が国のことを決める民主主義を目指して、仲間たちの先頭に立って民主化運動をしてきました。長い間、自宅に軟禁されていましたが、2010年に軟禁を解かれて政治活動を再開し党首としてNLDを率いて2015年の選挙で圧勝しました。国内では、今もたくさんのポスターやカレンダーが売られているなど人気なのですが、ラカイン州ロヒンギヤの迫害について、対応ができていないと国際的に非難されています。写真は、監禁されていた自宅で、中には入れませんが正門が観光名所になっていました。



18 ゴールデンロック

仏教の巡礼地として有名なチャイティーヨー・パゴダ（ゴールデンロック）です。ヤンゴンからキンピン・ベースキャンプまでは約200km、車で約4時間もかかります。タクシーで100ドルらしいのですが、20万kmも走った乗り心地の悪い車で、往復8時間も乗り続けるのは大変なので、ホテルで手配してもらいました。すると、写真のように私が以前所有していたシビックハイブリッドが来ました。写真の、真ん中が運転手です。値段は、たった15ドルしか高くなかったので、乗り心地を考えたら大正解でした。途中、高速道路が半分くらいありました。しかし、写真のような牛や豚が歩いていたり、自転車走っていたりして驚きました。麓の町で運転手は3時間ほど待ってもらい、山頂までは政府運営のトラックに乗り換えます。日本製の中古トラックの荷台にたくさんの椅子を設置しています。1列6人がけで7列なので、ぎゅうぎゅう詰めの満席になってしまいます。料金は片道が300円でした。狭く急な坂道を猛スピードで駆け上がって行くので、気分が悪くなっている人もいました。2017年12月には、中腹と山頂を結ぶロープウェイが開業していました。利用料金は、片道約500円です。1日2万人の利用が可能だそうです、あまり乗っている人はいませんでした。標高1000mほどの山頂まで曲がりくねった山道を10km40分ほど、トラックを降りると目当てのゴールデンロックまで800mほど参道を歩きます。外国人は参道の途中にチェックポイントがあるので、そこで約1,000円の入山料を払います。近付いてくると、靴を脱いで裸足になります。しかし、普通の道路と変わらないため、足の裏は真っ黒になりました。しばらく歩けばゴールデンロックが見えてきます。落ちそうで落ちないゴールデンロックに、人々は神秘的力を感じているようでした。どうも、お釈迦様の髪の上に乗っていて、霊力で岩は浮いて落ちないのだそうです。ゴールデンロックに直接触れるのは男性のみです。金箔を触ると少し湿った感じでした。夜のライトアップもきれいだそうで、山頂には、そのために何軒かホテルもありました。



シンガポール便り 262

2018年3月16日 三好 隆志

ミャンマー4

12 Bogyoke Aung San Market

ミャンマーで一番大きく観光客にとって代表的な買物スポットになっているこのマーケットが建設されたのは、イギリス植民地時代の1926年で、当時は統治政府の役人の名を冠した「スコットマーケット」と呼ばれていたそうです。ここには、ラタン・貝製品の雑貨、ロンジーと呼ばれる民族衣装や少数民族の衣料品と民芸品、金・ルビー・パール・翡翠の宝飾品など1,600以上のお店が集まっています。



13 病気

ミャンマーはシンガポールと同じ熱帯ですから、エアコンを常用しています。そのフィルターに付着したカビによって咳が出ることがあります。こまめにフィルターを掃除しないといけません。それから、道路の浸水によって汚水が傷口から病原体をもたらすことがあります。チフスなどに感染する一因となっているそうです。また、食中毒やデング熱にも、たくさんの日本人がかかっているそうです。



14 建設ラッシュ

ヤンゴンでは建設ラッシュが起きています。コンドミニウムや商業施設、ホテルなどどんどん建てられる建築物にはミャンマーの勢いを感じます。しかし、中には資金繰りなどの理由から工事をストップしている建物もありました。コンドミニウムの場合は、2020年には多くの建物が完成するため、現在は40万円くらいする日本人も利用している高級な物件も価格競争が起こってくると思われます。ホテルは、写真のパンパシフィックが2017年にオープンし、シェラトンホテルが2018年夏、ペニンシュラホテルが2021年のオープンを目指して工事をしていました。パンパシフィックホテルの場合は、2017年11月のオープンで、建物は25階建て336室の客室を持つ大規模なホテルです。また、左に見えるのが隣接する食堂街やスーパーマーケットを備えた複合ショッピングセンター「ジャンクションシティ」です。シンガポールの高級モールと全く遜色ない豪華さでした。他にも、1996年の開業のシャングリラホテルが5つ星ホテルのようです。ビジネスマンや観光客が多く宿泊していました。2014年4月に2年半をかけて全館の改装が完了したばかりなので、ロビーを始めパブリックエリアには重厚で伝統的な部分を残しつつ、客室はモダンに生まれ変わっているようです。マーケットなどにもたくさんの両替屋があるのですが、このホテルの両替コーナーが便利で安心なので2回利用しました。



15 日本人会

ミャンマーには、約2500人の在留邦人がいるそうです。ほとんどは、ヤンゴンに住んでいると思われます。ちなみにヤンゴンの人口は約500万人となっています。その日本人の約1100人が、日本人会の会員となっていて、安全で健康な暮らしができるように助け合っています。そして、ソフトボール・サッカー・剣道・テニス・ゴルフ・バレーボール・バスケットボール・囲碁将棋など18のサークル活動や安全対策セミナーや日本語スピーチコンテストの開催、日本人墓地の墓参りやバザーなどの活動を行っています。会館は、市の中心部20階建てくらタワー内の12階にあります。事務室・図書室・会議室・プレールームなどを完備し、図書室には約10,000冊以上の書籍、1,000枚以上のDVDを所蔵しています。2017年は、日本人会設立50周年ということで、10月に日本人学校で盛大に記念行事が行われました。校庭には屋台が並び、武道や舞踏が披露され、会場は超満員だったということでした。



ミャンマー-3

7 賃金

JETRO（日本貿易振興機構）の2016年アジア地域の日系企業4700社回答の実態調査では、ミャンマーからは74社の回答がありました。まず、従業員の月額賃金は124ドルだったそうです。これは、シンガポールの1700ドルはもちろん、タイの346ドルやベトナムの204ドル、カンボジアの175ドルやラオスの141ドルに対しても相当低くなっています。また、製造業のマネージャークラス（大学卒で勤続10年以上）の賃金は、シンガポールで4600ドル、タイで1438ドル、ミャンマーは694ドルだそうです。つまり、人件費が一番安いということになります。しかし、賃金の上昇率はトップで、パキスタンやインド、インドネシアとともに10%以上となっています。そのため、企業の経営上の課題は、従業員の賃金上昇と電力問題、原材料の現地調達の高コストや従業員の質の問題などだそうです。ちなみに、労働者の最低日額賃金は400円ほどで、500円に引き上げるようデモが起こっているようです。製品の輸出相手国は、日本の比率が71%にも上ります。これは、ASEANが主要の輸出相手国で日本には12%しかないシンガポールとは好対照です。



8 日本人学校

ヤンゴン日本人学校は、1964年の設立でバンコク日本人学校に次ぐ歴史があるそうです。児童生徒数は200人を超え、日系企業の進出が多くなっている現在は年間30人ほどのペースで増え続けているそうです。そのため、待機児童も出ているそうです。約1億6千万円かけた新校舎が、平成27年6月に完成したのですが、現在はまた増築工事が始まっています。完成は、2018年12月だそうです。



9 CATHEDRAL OF THE HOLY TRINITY

ミャンマー人の約9割は仏教徒ですが、その次に多いのがキリスト教徒です。故郷から遠く離れたイギリス人が、心のよりどころとして中心地に1894年に竣工しました。もちろん、ミャンマー全土がイギリス支配下のインド帝国に編入され植民地化に呼応してキリスト教の普及が奨励されたわけです。イスラム建築と、コロニアル建築が融合してアラブ圏の雰囲気も感じさせられる美しい教会でした。



10 Maha Bandula Park

元々は沼地だったそうですが、1868年に整備されて今では市民の集う公園になっています。公園の名前は、ミャンマーの歴史的偉人からちなんでいるそうです。公園の中央には「独立記念碑（Independence Monument）」のオベリスクがそびえたっています。1948年のビルマ独立を記念して、この場所に置かれていた英国ビクトリア女王の彫像に代わって、この塔が建てられたそうです。オベリスクには、1本の大きな塔の周りに、小さな7本の塔があります。これは、カチンやシャンなど7つの州を表したものだそうです。長いイギリスの統治時代を経て、国民が1つにまとまろうということ象徴しているということでした。



11 浸水

ミャンマーでは、雨季に月間降水量が600mm以上になります。岡山は、梅雨の時期に170mm、シンガポールの雨季で300mmですから、大変な雨が降るわけです。そこで起こるのが、道路の浸水です。膝下くらいの浸水が、川沿いなどでは毎年頻繁に発生するようです。また、市内全域で足首くらいの浸水は常に起こっているそうです。そこで、世界銀行が1億ドルを融資し対策工事に取り掛かっているということでした。



ミャンマー-2

6 自動車

ミャンマーの街をタクシーで走って感じたことは、中古の日本車がほとんどであるということです。ミャンマーの自動車保有台数は約 400 万台ですが、新車の輸入は認められていないため中古車ばかりのようです。また、他の東南アジアのようなバイクや自転車はヤンゴン市内では走っていません。例えば、タクシーは写真のトヨタサクシードワゴンが多く見られます。どれも 20 万 km 以上も走っていて、日本では廃車か 20 万円くらいでしか値がつかないものだと思います。多分、それが何倍もの値段になっているのでしょう。

実は、2012 年から 2016 年の間にミャンマーに輸入された中古車は、ほとんどが日本車で 68 万台に及んだそうです。確かに、BMW やベンツなどのドイツ車もほとんど見られません。新車については、ミャンマーでの自動車の現地生産は、国民所得の向上やインフラ整備などの条件が整ってこないと難しいようです。1 人当たりの GDP が 3000 ドルを超えると自動車が普及し始めるそうですが、ミャンマーはまだ半分以下の 1300 ドルですから、それは相当先の話になるのかもしれませんが。そして、ミャンマーの場合は民主化の流れはあるものの、政府の不透明な法整備も課題となっているようです。例えば、ヤンゴン市内はバイク走行禁止となっています。一方、地方ではバイクが生活の足となっていて、2017年には 100 万台の市場だったようです。ただし、自動車と同じく国内生産ではなく輸入車ということになります。バイクというと、ホンダかと思われそうですがシェアが 10%しかありません。中国製のコピーバイクが多く出回っているそうです。ホンダの場合は 15 万円前後ですが、中国製は 5 万円を切るそうですから価格では勝負になりません。しかし、欠陥や故障のない品質でこれからも本物志向を訴えていくそうです。

さて、トヨタやホンダが現地生産は時期尚早としている中で、スズキは写真の 4 ドアセダン「シアズ」を始め、ミニバンや軽トラックなどの国内生産を行っています。部品の大半を海外から輸入する組立生産ではありますが、2016 年に約 1300 台だった販売台数を、輸入車にかかる自動車登録税 30% が不要な点を優位にして、伸びていくものと期待されています。値段は、4 ドアセダン「シアズ」で、約 200 万円ということでした。ところで、ミャンマーの中古車でなぜか目立つのがホンダのハイブリット車です。実は、写真のシビックハイブリットは私が以前所有していた車です。その下のインサイトと共に、トヨタのプリウスやアクアに販売面で劣勢となり生産終了してしまいました。そのプリウスなどは、ほとんど見なかったので不思議に思いました。また、中古車でも値段が高いのにもかかわらず、ほこりまみれで汚れている車が多いのにも驚きでした。

ところで、2016 年に中古車輸出先 1 位はアラブ首長国連邦でした。そして、2 位は約 12 万台のミャンマーだったのです。しかし、右側通行の国内だから右ハンドルの中古車に対する輸入規制が始まり、落ち込むことになるかもしれないそうです。

最後は、公共交通機関のバスです。これは、写真のようなエアコン付きの新しいバスがたくさん導入されていました。料金は、古いエアコンのないバスよりも高い約 30 円です。昨年、たくさんのバスが入り乱れて、渋滞に拍車をかけていたため、これまで運用されていた約 300 路線は 61 路線に縮小されたそうです。また、バスの台数は 7,800 台から 3,700 台へと削減され大きく渋滞は改善されたようです。写真のバスは、国際協力機構 (JICA) が、「ヤンゴン都市圏交通マスタープラン」に基づいて BRT (バス高速輸送システム) の整備として進めてきたものだそうです。



シンガポール便り 259

2018年3月13日 三好 隆志

ミャンマー

ミャンマーは、面積 676,578 km²、人口 52,885,223 人 (2016 年)の東南アジアの国です。シンガポールからは、飛行機で約3時間、今回はジェットスターに乗って4泊5日4万円ほどの旅費でした。現地で3万円ほど使いましたが、やはりヨーロッパやオーストラリアなどに行く旅行と比べ非常に経済的です。

さて、有名なアウンサンスーチーの新政権がミャンマーに誕生して1年、半世紀にわたった軍事政権から民主化への「政権交代」が行われました。しかし、最近では西部ラカイン州の少数派イスラム教徒ロヒンギヤに対する人権侵害で口をつぐむ姿勢に、国際社会から批判を浴びています。今回は、ヤンゴン周辺だけを旅行し、危険な地域には足を踏み入れないようにしました。

1 気候

5～10月には雨季となり降水量が非常に多くなるようです。そのため、観光で訪れるなら11～2月の乾季の時期が良く、しかも夏場に比べて若干過ごしやすい気温になります。私が旅行した5日間は、最低気温が23℃くらいで、最高気温は30℃くらいでした。当然、夏の服装ということになります。

2 物価

物価については、当然日本やシンガポールより安いです。特に、ビールは半額の120円くらい、タクシーも半額の5kmが300円くらいでした。ただし、外国人向けのマンションは30万円くらいですし、日本からの品物は倍くらいしていました。

3 食べ物

ミャンマー料理の特徴ですが、タイ料理に似ていると思いました。カレーのような煮込み料理や、モヒンガーと呼ばれるナマズやバナナの茎などでダシをとったとろみのあるスープを、ビーフンにかけた麺料理などが代表的な料理です。スパイスの使用が控えめでそれほど辛くはありませんが、油が多く使われていて毎日食べるのは厳しそうでした。

4 宗教

ミャンマーは人口の90%くらいが仏教徒といわれる国です。しかも、ミャンマーの人口の約13%が僧侶とされています。確かに、街を歩くとたくさんの僧侶を見かけました。中には、子どもの修行僧もいます。10歳くらいの男子が、見習い僧として1週間くらい修行するそうです。また、成人男性は一生のうち何度か半年くらいまでの短期間仏門に入って、戒律の中で僧侶と同じ生活を送るそうです。だから、街中でたくさんの僧侶を見ることになります。日本の仏教は、信仰さえあればどんな人間でも救いがあると説くのに対し、ミャンマーでは厳しい修行を積んだわずかな人のみが救いを得ることができるという考え方だそうです。だから、本物の僧侶は人々から尊敬される存在だそうです。ただ、現実には修行している一般男性が多いためか、写真のように携帯電話をずっと操作している僧侶もよく見かけました。

5 治安

エレベーターで携帯電話を拘られた日本人がいたそうです。信号のない道路が多く、渡るときは決死の覚悟が必要です。また、右側通行なので、日本人にとっては死角から自動車が現れるような感覚がありました。ただ、他の東南アジアの国よりも、比較的治安が良いと日本からの旅行者は増えているようです。



イノシシ

シンガポールには、高層ビルが立ち並ぶシティーや、庶民が住む郊外の高層住宅 HDB 以外に、昔からの景観をそのまま残した広大な自然公園があります。そこには、いろいろな野生動物が暮らしていますが、写真のようなイノシシもたくさんいます。そして、日本でもあるように、時に住宅地に出てきて人を襲うことがあるようです。だから、フラッシュをたいたり至近距離で写真を撮ったりしない、餌を与えない、子連れには特に要注意などと人々に呼びかけています。



サル

果物の王様と言われるドリアンは、その匂いの強烈さからホテルやバスなど公共の場への持ち込みが禁止されています。だから、仕方なく近くのマーケットで買って、歩いて持ち帰っています。ドリアンは、好き嫌いが分かれますが、とても栄養価の高い果物です。ジャングルを歩いていた時に、偶然サルが落ちていたドリアンを食べているのを目撃しました。固い殻をどうやって開けたのでしょうか？もしかしたら、高いところから落ちて割れていたのかもしれませんが、ところで、シンガポールでは人口が増え島全体の森林破壊が進んだため、多くのサルが本来の生息地を失ってしまいました。その結果、人間の居住区に入ってくるようになって来ています。右の写真のように、日本人学校にも迷い込んで来ました。本来、サルは人間を襲わないのですが、最近では攻撃的なサルが増えてきています。サルは賢いので、食べ物を持っていると近寄って来るのです。残念ながら、サルの攻撃の原因は、人間が餌を与えてしまうことや、サルが人間＝食べ物があると関連付けていることから生じているということでした。



危ない

ドリアンの実もですが、ヤシの実も頭の上に落ちてきたら大変です。20m くらいの高さから、1kg 以上の固いものが落ちてくるわけですから、重大な事故になってしまいます。だから、そのような危険がある場所では、クレーンであらかじめヤシの実を取り除いていました。実が出来るたびにこのような作業が必要であるのならば、ヤシの木を安全な場所に移動した方がいいような気がするのですが、このような単純労働賃金の安いシンガポールだからかなあと思いました。



カニ

右の写真は、磯に隠れていたカニです。多分シオマネキだと思います。シオマネキは、はさみで砂をすくいにとって口に入れ、プランクトンなどをこしとって食べています。メスのはさみは両方とも小さく他のカニと同じですが、オスのはさみは片方が大きくなっています。それは、メスの気を引くためのようです。メスのそばで大きなはさみを動かして体をゆすり、自分を誇示します。その時の動きが、潮を招いているように見えることから名前がついたということでした。



トカゲ

自然公園に行くと、体長が2m もあるオオトカゲに遭遇することがあります。こうした大型の爬虫類は、森やマングローブ林、水辺を生息地としているため、貯水池周辺や湿地保護区でよく見かけます。オオトカゲは基本的におとなしい性格で、人間を見ると逃げます、恐怖を感じると噛みつくことや、長い尾で攻撃してくることもあるそうです。オオトカゲの尾の衝撃は、大人の骨を折るほど強いいため、見つけたら距離をおいて観察しています。野生動物は、刺激しないようその生態を守っていくことが大切だと思います。



シンガポール便り 257

2018年3月11日 三好 隆志

Batam 島

シンガポールの南 20 km に浮かぶ Batam 島に行ってきました。 Batam 島は、人口が 115 万人、面積が 415 km² ですから、シンガポールの 3 分の 2 くらいの大きさの島です。高速フェリーで 30 分間、あっという間に着いてしまいます。普段の平日は、気軽に行けるのですが、今回は週末と長期休暇が重なって、大変な混雑でした。出国と入国が 2 回ずつ合計 4 回あり、全て 2 時間くらいかかったので、合計 8 時間も待ったこととなります。旅行記などで、出航の 30 分前に港に行けばよいなどとありますが、それでは全く間に合わないこととなります。

さて、Batam 島の東にある Bintan 島は、リゾートが有名で今までに 3 回旅行しましたが、Batam 島はあまり有名ではなく今回が初めてでした。シンガポールからはビジネスを除いては、ゴルフで訪れる人が多いそうです。Batam 島は、1971 年からシンガポール政府との協調体制の下、自由貿易地域に指定してより安い労働力が提供できる場所として、いくつかのシンガポール企業が Batam 島に工場を設立しました。出荷の関税が全くかからないため、造船、電子工業、および機械工業開発が進んでいます。



フェリーについては、シンガポールからはハーバーフロントとタナメラの港から出ています。私のマンションはタナメラに近いので、そこから出かけました。また、Batam 島には 5 つの Batam・センター、ハーバー・ベイ、セクパン、Batam・ウォーターフロント・シティ、ロング SUPRA の 5 つの港があります。私は、1 番大きな Batam・センターに行きました。値段は、往復 4000 円くらいになります。この Batam 島にも、Bintan 島ほど有名ではありませんが、トゥリビーチやマリナーがあり家族連れがリゾートを楽しんでいるようです。また、ゴルフ場は、世界中のゴルファーが憧れるスコットランドの「リンクス」のようなサウスリンクス カントリー クラブなど 6 カ所くらいあります。値段も、シンガポールの半額以下でプレイできます。今回の私は、ゴルフやリゾートではなく観光が目的でした。この島の一番の繁華街は、ナゴヤというエリアです。大きなショッピングモールがあり、シンガポールと同じような雰囲気がありました。しかし、やはりここはインドネシア、隣接する「ジョドーエリア」や「バツアンパエリア」は昼夜問わず 1 人歩きは避けた方が良いでしょう。貧困の人達が生活していて、日常的に暴力事件や窃盗事件が発生しているそうです。確かに、住居は粗末であったり、物乞いをする人がいたりしました。



まず訪れたのが、Tua Pek Kong Temple 大悲佛堂です。とても大きな、個性溢れる道教寺院でした。ただし、中華系住民は10%ほどと少ないためか、観光客や参拝者はほとんどいませんでした。



次は、Jabal Arafah Mosque です。丘の上に建っており、ちょうど改修中でした。モスクは、イスラム教信者がお祈りに来るのですが、日本人の私も訪れた4つの全て中には入ることが出来ました。



次は、Goddess Kwan Statue です。"KTM Resort" の敷地内に高さ20mの大きな白亜の仏像が海に向かって立っていました。すぐ横には"大聖廟"もあり中華系の人々が参拝していました。海岸にあるプールからは、遠くマリーナベイサンズなどシンガポールの高層ビル群が見えました。最後に紹介するのは、人気第1位の観光スポット Maha Vihara Duta Maitreya Temple です。5haと広大な敷地には、いろいろな仏教彫刻がありました。また、レストランでは精進料理を食べることができるそうです。他にも、Masjid Al Falahなどを訪れました。



また、チャーターしたタクシーは、シンガポールの4分の1くらいの値段のマッサージや食事にも連れて行ってきて、1日4000円でした。申訳ないのでチップを1000円渡すと大喜びの様子でした。食事は、インドネシア料理が大好きで、特にパダン料理は今回の目的だったので、地元で美味しいと評判のレストランに連れて行ってもらって大満足、運転手にご馳走して2人で何と1500円でした。ちなみに、ホテルは4つ星のノボテルで、朝食込の5000円でした。



最後の写真は、インドネシア警察への包括的な支援プロジェクトで8年目を迎えた、日本の地域密着型をまねた交番です。いくらかでも治安の安定に役立っているのであれば嬉しいです。今回の旅行は、フェリーもホテルもネット予約していましたが、帰りにカウンターでQRコードのチケットを引き換える時に、予約なしの人は6時間待ちになっていて、事前予約していて良かったなと思いました。

シンガポール便り 256

2018年3月10日 三好 隆志

国立博物館

シンガポール国立博物館 (National Museum of Singapore) は、シンガポールでは最も古い博物館で、1849年に Raffles Institution の図書館の一部として設置したのが始まりだそうです。その後数回移転した後、1877年にスタンフォード・ロードの側の現在の位置に設置されることになったそうです。閉館日はなくて、大人の入場料は15ドルですが、教員は身分証を提示すると無料で入場できます。

この建物の様式は、ネオパラディアンと呼ばれるデザインです。これはもともと16世紀のヴェニス建築家・パラディオがデザインした様式ですが、その後イギリス人建築家らが引き継いでおり、シンガポールでもラッフルズホテル、フラトンホテル、ナショナルギャラリー、アジア文明博物館等の建物にも取り入れられているそうです。正面のドームには、ビクトリア女王在位50年を記念して50枚のステンドグラスがはめ込まれています。また、裏手の本館はガラスや金属を使ったモダンな造りになっていて、建物そのものが芸術的で素晴らしい構造です。今回は、日本人会の日本語ガイドボランティアの皆さんにチャンギ校職員が15人ずつの3グループに分かれて案内していただきました。私のグループのガイドは、何と校務主任をしている女性教員のご主人でした。今回は、常設されている歴史ギャラリーとシンガポール・リビング・ギャラリーを見学しました。他に、Story of the Forest というシンガポールの動植物がデジタルアートとして表現されているメルヘンな展示コーナーや特設展、そして入り口近くには FLUTES というレストランがあります。白を基調とした店内は、優雅でゆったりと過ごす事が出来ます。

さて、まずは歴史ギャラリーに入りましょう。シンガポールは、他の東南アジアと同じように、カンポンと呼ばれる高床式の家に住んでいて漁業や時には海賊として生計を立てていたようです。700年前からやっと文字による歴史が明らかになっていて、それまでのことは詳しくは分からないそうです。写真の花崗岩は、シンガポールストーンと呼ばれる最古のサンスクリット文字が書かれている石で、だいたい10世紀頃のものだそうです。その頃のシンガポールは漁村で、テマセックと呼ばれていたようです。その後、14世紀末にはサンスクリット語で「ライオンの町」を意味するシンガプーラという名称が定着して現在の「シンガポール」の由来となっているそうです。なぜテマセックからシンガプーラになったかは諸説があって、マジヤパヒト王国の属国地の通称である説、「シンガ」は寄港を意味し単に寄港地という一般名称であったとする説、シュリーヴィジャヤ王国の王子が動物をライオンと見間違えてつけたとする説などがあるようですが、シンガポールではスマトラより来訪したサン・ニラ・ウタマによって建設され、この名がつけられたとする説を通説としているようです。写真は、ベルギーのオルテギュースが作った1570年世界地図です。この当時は、大航海時代でポルトガルの侵略を受けていました。季節風を利用して、春夏は南西風、秋冬は北東の風に乗って航海をしていたそうです。日本では戦国時代に当たります。この時代の展示物には、中国陶器やガラス製品、イヤリングやプレスレッドなどの装具などがあります。また、カーラと呼ばれるヒンズー教では時間の神で、食いしん坊なため自分の体まで食べて顔面だけになったと言われているデザインもあります。つまり、すでにインドや中国やインドネシアなどと交易をしていた海上交通の要所であったことが分かります。その後、1641年にジョホール王国が協力してポルトガル領マラッカをオランダが独占することになり、ポルトガルの覇権は終わりました。





1819年1月、当時人口わずか150人程度のシンガポールに、イギリス人トーマス・ラッフルズが上陸を果たしました。ラッフルズは、14歳の時に東インド会社に入社し、19歳で正社員にとりたてられました。38歳で書記官を務めていたラッフルズは、当時何もなかったシンガポールの地理的重要性に着目し、1819年2月6日、島を支配していたジョホール王国より商館建設の許可を取り付けました。名称も英語風のシンガポールと改め、都市化計画を推し進めたのです。1824年には植民地としてジョホール王国から正式に割譲がなされるとともに、オランダもイギリスによる植民地支配を認めることとなりました。子どもたちの好きなポケモンに、世界一大きな花として出てきて有名になったラフレシアは、ラッフルズ卿の花という意味だそうです。現在も、ラッフルズプレイスにはラッフルズの銅像が立ち、上陸地点が示されています。この後、無関税の自由港政策を推し進めたことや、博打や阿片などにもよって栄えていき、1950年頃には、絵のような街並みになっています。この当時の人口は約5万人、絵には上流階級の西洋人とともに、インドから連れてこられた囚人たちが、街づくりに働かされている様子が描かれています。1890年頃には、マレー半島から産出される錫や天然ゴムの加工積出港としても栄え、スエズ運河の開通によって100日かかっていた航海が40日に短縮され、人口は22万人になっていました。また、この時代に港湾荷役労働者、貿易商、行政官吏として、中国南部、インド南部、インドネシアなどから多くの移民がマレー半島やシンガポールへ渡来し、現在の多民族国家の起源となりました。しかし、クーリーと呼ばれた人々の労働は過酷で、阿片は公認されていたり伝染病が蔓延したりしていたそうです。

さて、次は太平洋戦争です。1942年2月、シンガポールのイギリス極東軍は山下奉文中将が率いる日本陸軍による攻撃を受けました。イギリス、オーストラリア、インド、ニュージーランドの連合軍は、数の上では日本軍を上回りましたが統制を欠き、日本軍は連戦連勝でした。ジャングルの狭い道を三菱重工の95式軽戦車や自転車（銀輪）部隊が、マレー半島1100kmを50日間で駆け抜けたのでした。この攻撃は9日間で終わり、日本陸軍による軍政が敷かれました。シンガポールは「昭南島（しょうなんとう）」と改名されたのです。この後、中華系住民のゲリラや反乱を恐れた日本軍は、抗日運動家やその支援者と目された中国系住民を指定地へ集合させ、氏名を英語で書いた者を「知識人」、「抗日」といった基準で選別し、対象者をトラックでイーストコーストに輸送し殺害しました（シンガポール華僑肅清事件）。その数は、日本側で6000人、シンガポール側で30000人と発表しているそうです。その遺品も展示されていました。日本の敗戦により第二次世界大戦が終結し日本軍が撤退したものの、日本と入れ替わり戻ってきたイギリスによる植民地支配は継続することとなり、長年の念願であった独立への道は再び閉ざされてしまいました。そのため、独立運動は続いて、ストライキも頻発し戒厳令が敷かれて写真のような取り締まりも強化されました。しかし、とうとう1959年に初代首相になったリークワンユー率いる政党が、51議席中43議席を獲得し、1965年のマレーシアからの独立へと続いていくことになりました。それから、資源のないシンガポールを存続発展させるために、首相は強いリーダーシップを発揮します。国防では、18歳から2年間、男子全員に徴兵制度を敷きました。その後、大学に進学するわけです。これにより、多民族国家のシンガポールは、国民が一つになっていきました。そして、人材育成に力を注ぎ、外資を積極的に取り入れ、汚職をなくし、国民の住居を保証し、次々に打っていった政



策が効果を上げて奇跡的な発展へとつながっていきました。独立当初は、人々の暮らしは苦しく、インフラも貧しくて洪水が良く起こっていたそうです。最初は、ジュロン工業地帯で線香やろうそくを作っていた工業も、家電、ITへと変化していきました。そして、GDPは2014年の統計で世界第6位何と71318ドルも稼いでいるのです。国内126銀行の内、121は外資系だそうです。これからのシンガポールの課題は、日本と同じような少子高齢化を迎えること、国民の格差が拡大していること、優秀な人材の海外流出などがあります。しかし、スマートシティへの取り組みなど、今後も世界の模範となる国家づくりを推し進めていくものと思います。



シンガポール便り 255

2018年3月8日 三好 隆志

自動車

シンガポールの国土は狭く、土地は大変貴重です。陸上交通庁 (LTA) によれば、政府は今後5年で鉄道・バス輸送関連でさらに280億シンガポール・ドル (約2兆3300億円) を投資するそうです。政府は自動車・二輪車の保有台数伸び率をこれまで年0.25%を上限としてきたそうですが、この2月からはゼロ%にしているそうです。これは、交通渋滞の緩和や道路網拡張余地の少なさからだとのことです。シンガポールではすでに国土面積の12%が道路なのだそうです。現在、自家用車の数は約52万台だそうです。10年で車の保有権が切れるので、毎年5万台余りが新しく売れていることになります。さて、私は車が好きなので、最近の人気車種が気になっています。それは、写真のホンダシビックです。この車は、以前のシビックと大きくイメージが変わりましたが、セダンが売れない日本でも予想に反して人気だと聞きました。他には、トヨタ C-HR もよく見かけます。逆に、日産や三菱はあまり見かけない感じがします。もしかしたら、不祥事の影響かもしれません。



日系企業

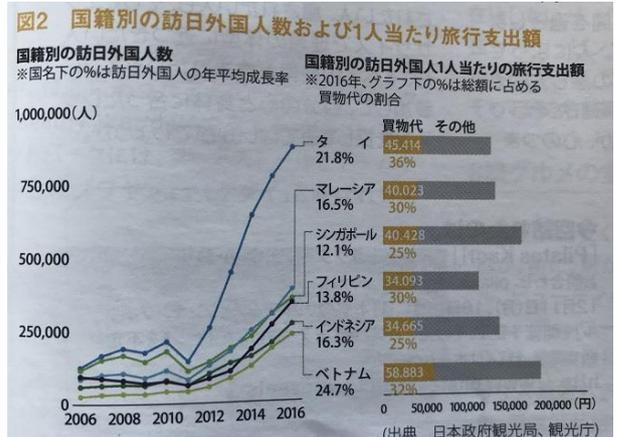
アジアに進出している日系企業について、JETRO (日本貿易振興機構) によると、中国が32313拠点と群を抜いてトップでした。しかし、伸び率は鈍化しています。2位のインドは4590拠点で、まだ増加傾向が続いています。シンガポールは、1141拠点でした。著しく伸びているのは、ミャンマーとカンボジアです。これは、中国からインドネシア、タイ、ベトナムなどの安価な労働力を求めて企業が進出先を変更して来ていて、現在はその2国が注目されているということになるわけです。ただ、人件費の安さで進出しても、インフラなどが整っていなかったり、仕事がなかったりして撤退してしまう企業も多いそうです。

アジア国(地域)別日系企業(拠点)数推移(※カッコ内は前年比) ※各年10月1日現在 ※単位:拠点
※海外在留邦人数調査統計(平成29年要約版)より

	2016年	2015年	2014年	2013年	2012年
中国	32,313 (-3.2%)	33,390 (2.2%)	32,667 (3.2%)	31,661 (1.9%)	31,060 (-7.1%)
インド	4,590 (6.4%)	4,315 (11.2%)	3,880 (54.6%)	2,510 (46.5%)	1,713 (20.0%)
インドネシア	1,810 (6.7%)	1,697 (-3.9%)	1,766 (22.8%)	1,438 (2.9%)	1,397 (6.8%)
タイ	1,783 (3.4%)	1,725 (5.1%)	1,641 (3.9%)	1,580 (7.6%)	1,469 (7.8%)
ベトナム	1,687 (6.9%)	1,578 (8.7%)	1,452 (10.9%)	1,309 (8.1%)	1,211 (12.0%)
フィリピン	1,440 (-0.6%)	1,448 (-4.8%)	1,521 (20.7%)	1,260 (3.8%)	1,214 (3.7%)
マレーシア	1,362 (-1.5%)	1,383 (2.7%)	1,347 (-3.1%)	1,390 (31.6%)	1,056 (-9.9%)
台湾	1,152 (2.4%)	1,125 (1.2%)	1,112 (-0.6%)	1,119 (-1.9%)	1,141 (3.7%)
シンガポール	1,141 (2.2%)	1,116 (43.3%)	779 (2.4%)	761 (0.5%)	757 (4.8%)
韓国	695 (3.9%)	669 (0.3%)	667 (1.2%)	659 (7.5%)	613 (10.5%)
ミャンマー	397 (14.7%)	346 (33.6%)	259 (67.1%)	155 (106.7%)	75 (10.3%)
カンボジア	270 (20.5%)	224 (23.1%)	182 (28.2%)	142 (13.6%)	125 (68.9%)
パングラデシュ	270 (11.1%)	243 (10.0%)	221 (20.8%)	183 (18.1%)	155 (18.3%)
ラオス	130 (1.6%)	128 (12.3%)	114 (10.7%)	103 (24.1%)	83 (22.1%)

訪日外国人数

訪日外国人数は、中国が年間約700万人です。以下韓国650万人、台湾450万人、香港220万人などと東アジアで全体の7割になります。それから、アメリカ130万人、タイ90万人、オーストラリア50万人、と続いていきます。そこからは30~40万人の国がフィリピン、マレーシア、インドネシアシンガポール、ベトナム、イギリスというように続いています。特に、東南アジアからの訪日外国人数が大きな伸びを示しているようです。訪日外国人数は2013年に初めて1000万人を超えました。そして2014年1341万人、2015年1974万人と順調に拡大してきて、2016年には2403万人、2017年は3000万人手前と、政府が2020年オリンピックの年の目標に掲げる4000万人に向けて伸びてきています。



シンガポール外国人労働者数

シンガポールには、137万人の外国人労働者がいます。そして、私たち日本人学校の教員のような最低月給30万円以上のEP所持者は19万人、それより下がSパスで18万人、メイドや肉体労働者が24万人と30万人、その他の低賃金で働く単純作業労働者が44万人となっています。

注記: 1. 数値は四捨五入しているため、合計が合致しない場合があります。
2. 「その他のワークパス」にはLOC(レター・オブ・コンセント)およびTWP(トレーニング・ワーク・パーミット)が含まれる。
2014年3月以降「その他のワークパス」にTEP(トレーニング・エンプロイメント・パス)が加えられた。

外国人労働者数	2012年12月	2013年12月	2014年12月	2015年12月	2016年12月	2017年6月
パスの種類						
エンプロイメントパス (EP)	173,800	175,100	178,900	187,900	192,300	189,900
Sパス	142,400	160,900	170,100	178,600	179,700	179,400
ワークパーミット (合計)	942,800	974,400	991,300	997,100	992,700	975,800
- ワークパーミット (メイド)	209,600	214,500	222,500	231,500	239,700	243,000
- ワークパーミット (建設作業員)	293,300	318,900	322,700	326,000	315,500	296,700
その他のワークパス ²	9,300	11,300	15,400	23,600	28,300	29,800
外国人労働者数合計	1,268,300	1,321,600	1,355,700	1,387,300	1,393,000	1,374,900
外国人労働者数合計 (メイドを除く)	1,058,700	1,107,100	1,133,200	1,155,800	1,153,200	1,131,900
外国人労働者数合計 (メイドおよび建設作業員を除く)	731,300	748,100	764,500	780,300	787,800	787,000

駐車違反

シンガポール国内の駐車違反取り締まり数は、年間50万件近くにもなるそうです。岡山市でもよくある路上駐車券を購入して枠に停めているのをよく見ます。だいたいのところは1時間1ドルくらいです。これをチェックする監視員がいて、'Summon Antie'と呼ばれています。正式名称は、**Parking Enforcement Officers** と言うらしいです。どうも出来高制のようで、せつせと目を光らせています。ただ、免許の減点制度はなく、罰金も日本より若干安いようです。



女性管理職

文部科学省の調査によると、平成26年度の女性管理職の割合は過去最高の、小学校 20.6%、中学校 7.2%だったそうです。教員全体に占める女性教員の割合も増加傾向にあり、小学校 62.4%、中学校で 42.6%だったそうです。さて、シンガポールではどのようだと思いますか。平成28年度の割合は、小学校 75%、中学校 49%だったそうです。これは、30年間で約2倍になっているそうです。教員全体に占める女性教員の割合も、教職員全体の 70%程度で推移しているそうです。つまり、日本よりも社会における管理職の性別多様化が進んでいると言えます。



ハウパーヴィラ(タイガーバームガーデン)

タイガーバームは、チャイナタウンでのお土産で上位にくる外用消炎鎮痛剤です。30gの瓶が400円ほどで買えますから、たくさんの方がお世話になったことがあると思います。ただ、匂いが強烈なので、若い人には向かないかもしれません。さて、1935年にタイガーバームの売り上げで財を成した香港の富豪、胡文虎によって宣伝のために作られたのがこのハウパーヴィラです。中国の神話や説話、道教の教えなどを色鮮やかなコンクリート像で再現した、非常に変わったテーマパークです。もともとは「タイガーバームガーデン」として知られていたこのテーマパークは、香港にも同名の彫刻庭園があったそうですが、そちらは2000年に閉鎖されてしまったそうです。途中閉園になったり、遊具を備える遊園地になったりして、現在は無料の公園になっています。場所は、シンガポール西部の日本人学校クレメンティー校の近くになります。公園というのだから遠足で行けないかと見学したのですが、地獄のリアルな描写や、恐ろしい形相の動物など、あまりにシュールで子どもたちが泣き出すかもしれません。他にも、世界やシンガポールの死者の葬り方や、華僑の歴史などのコーナーもありました。私は、筒井康隆の小説を思い浮かべてしまいました。



ピナクル

シンガポール国民のほとんどが住んでいるHDBと呼ばれる公団住宅ですが、新築でもたいてい3000万円から4000万円という値段で、岡山のマンションと同じレベルです。しかも、色々な助成があるので、500万円前後は安く購入できます。ただし、シンガポール国民もしくはシンガポール永住権保持者の既婚者しか所有権はありません。それに対し、コンドミニウムと呼ばれる民間マンションには、お金持ちのシンガポール人や駐在員の外国人などが住んでいます。その新築の値段は、1億円以上になります。こういう区別があるわけですが、実はビジネス街中心タンジョンパガーに、「ピナクル・アット・ダクストン (The Pinnacle @ Duxton)」というHDBがあります。7棟からなる超高層ビルは、50階建てで2009年に出来ました。何と、世界で一番高い公団住宅だそうです。また、この場所はシンガポール最古のHDBがあったそうです。7棟は、26階と50階のスカイブリッジでつながっています。最上階の展望スペースには、バスやMRTで使っているEZ-LINKカードを利用してG棟1階の管理人室に6ドルを払い入場出来ます。端から端までは、400mくらいあります。途中にはベンチがあるので、座って休憩ができます。眺めとしては、西方向にセントーサ島やコンテナが無数にあるシンガポール港が直下に見られます。また、東方向には金融街やチャイナタウンも見ることが出来ます。この最上階のみは、展望スペースとして一般の人にも開放しているわけですが、基本的には住民の散歩スペースです。見た目は、おしゃれなコンドミニウムですが、やはり値段も1億円くらいするようで、HDBとしてはけた外れです。中庭には、エッセン (Garcons Essen at The Pinnacle) と呼ばれるこれもお洒落なフードセンターがありました。



街中のコンドミニウム



ピナクルに対して、写真のようなコンドミニウムは、セキュリティーがいて塀があり、誰でも入ることが出来るHDBとは違います。また、プールやジムやテニスコートなどがあることも大きな違いです。しかし、街中のコンドミニウムは価値が高くなるため、1棟が単独で建っているものが多く、40階建くらいの高層だけれども、狭いフロア面積となっています。写真のように、1階は駐車場などに使われ、プールは5階などの低層階に狭く細長いものが多いようです。

マレー鉄道

1903年にタイからシンガポールまで鉄道がつながっていて、マレー鉄道とかマレー半島縦断鉄道とかと呼ばれていました。しかし、2011年にシンガポール国内の路線は、出入国手続きの複雑さや権利関係の問題で廃止されてしまったそうです。最後の年には、シンガポール日本人学校の修学旅行でこの列車を利用してマレーシアの方に出かけたそうです。現在は、シンガポール駅からタンジョン・バガー駅間の約24キロの廃線跡は大半のレールが外されていますが、熱帯雨林の自然や鉄道を体感できる遊歩道の「グリーン・レール・コリドー (緑の鉄道回廊)」として整備されています。休日には、たくさんの方がウォーキングやジョギング、サイクリングなどを楽しんでいました。私は、マンションからMRTダウンタウンラインが開通し、50分かけて直通でビューティフルワールド駅まで行きました。そこは、ブキティマ山や旧フォード自動車工場にも近い場所です。写真の鉄橋までは北へ1時間弱、ブキティマ駅跡には南へ1時間ほど歩いて行きました。汗だくになりますが、大木や小川に群れる赤とんぼなどを見ながらなので、気分はとても爽快でした。



特別支援教室

3年目の今年度は、特別支援教室を担当しコーディネーターも兼任しました。そこで、今回は日本人学校における特別支援教育について特集します。世界に90ある日本人学校の中で、特別支援教室が設置してある学校は上海、香港、台北、サンパウロ、ニューヨーク、バンコク、クアラルンプール、ブタペストなどわずか10校ほどです。それは、支援態勢（主に人的態勢）及び施設、設備面において十分な支援ができないので、原則受け入れていない学校がほとんどなのです。その中でもチャンギ校は5教室24人の児童が在籍する（来年度はさらに増える見込み）世界1の規模の学校です。



1 日本の特別支援教育の現状

近年、特別支援学校や特別支援学級に在籍している幼児児童生徒が増加する傾向にあります。平成26年内閣府発表によると、義務教育段階において特別支援学校及び小学校・中学校の特別支援学級の在籍者並びに通級による指導を受けている児童生徒の総数の占める割合は約2.5%となっています。また、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）高機能自閉症等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒数については、通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査の結果では、約6.5%程度の割合で通常の学級に在籍している可能性を示しています。

2 特別支援教育の領域

発達障害を含め、障害のある全ての子どもを対象とするものです。従来の「特殊教育」が障害の種類や程度に応じて特別な場で手厚い教育を行うことに重点が置かれていたことに対し、「特別支援教育」は障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うことに重点が置かれており、小学校・中学校の通常の学級に在籍する発達障害などのある子どもも含め、より多くの子どもたちの教育的ニーズに対応した教育を行います。

3 障害の種類

- ・情緒障害（自閉症）・・・他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害。
- ・知的障害・肢体不自由・視覚障害・聴覚障害・病虚弱
- ・発達障害
 - （高機能自閉症）・・・自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないもの。
 - （学習障害（LD））・・・基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すもの。
 - （注意欠陥多動性障害（ADHD））・・・年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもの。

※アスペルガー症候群とは、知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないもの。なお、高機能自閉症やアスペルガー症候群は、広汎性発達障害に分類されるもの。

4 生活の場

本校には、ドリーム2教室とステップアップ2教室、そしてトライアングル1教室の合計5教室が設置されています。どの教室に在籍する子どもも、特別支援教室だけではなく、その子どもの学年の通常の学級に在籍していて、朝の会と帰りの会などはそこで過ごしています。机、椅子、ロッカーなども、特別支援教室と在籍学級の両方に用意されています。（トライアングルは除く）全校関係の便りなどの配布物は、在籍学級で渡されることが原則になっています。在籍学級の集団に、入ることが難しい子どもには、本人と関わりやす



い子どもが特別支援教室に届けるようにしていますが、それも難しい場合には、在籍学級担任が特別支援教室まで届けています。また、どの子どもも在籍学級では生活班に所属しています。多くの子どもは係を分担し、高学年になると児童会やクラブ活動の所属先を在籍学級で決定します。このように、在籍学級と特別支援教室との両方に居場所があることで、双方を行き来することが当然であるという理解のもとに生活できるようになります。こういった環境づくりがとても大切です。



5 学習の場

さて、朝の会などの他に、社会科や理科や校外学習などを一緒に学習する場合があります。その場合、教科のねらい以外に特別支援の子どもには「多くの友達と一緒に活動することに慣れ、見通しをもって活動できるようになる」「説明を聞き取る力を高める」ことなどがねらいとなります。同じ場で授業を受けていても、障害のない子どもと障害のある子どもとは、学習のねらいが異なる場合があります。一人一人の子どもの実態に応じて適切なねらいを設定します。



6 時間割

通級を円滑に進めるには、事前に時間割を整えておく必要があります。これは、双方の事情だけで決められるものではないため、全校で見通しをもって協力体制を整備することが必要です。教務から次の月の時間割が示されたらただちに全部のコマを埋め、特別支援部の方にも提出してもらっています。それを見て、特別支援では該当する子どもの時間割を決めていきます。



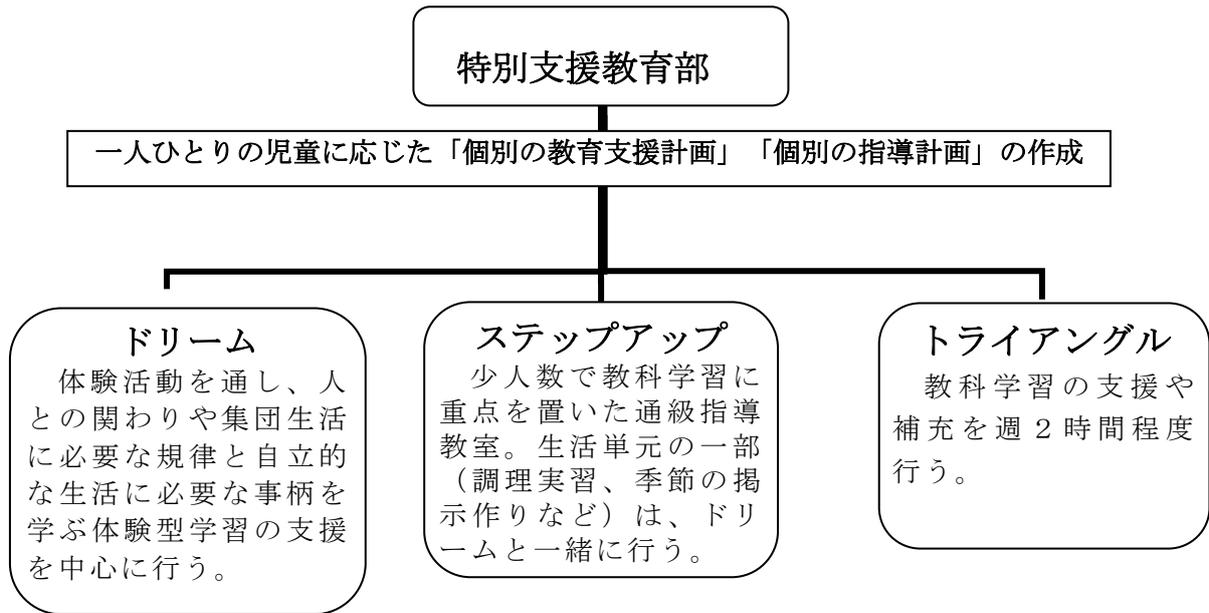
7 子どもの関わり

周囲の子どもたちの気づき（評価）を尊重します。好きなことに集中して取り組んでいる様子には在籍学級の友達も感心することがあります。しかし、教師の指示を聞きながらノートをしたりする活動には苦勞する子どもが多いので、さりげなく近くの友達が言い直したり、メモしやすくようにまとめたりしていきます。担任や専科の担当は、「〇〇君、とても上手にまとめられたね」とほめるとともに、支援してくれた友達の行動の良さも評価しています。在籍学級の子どもたちにとっても、分かりやすく説明することを通し、自分たちの理解も確かなものになっていきます。



8 教育目標

1 学校教育目標
「持続可能な社会の担い手として、夢を抱き自らの可能性を伸ばし、豊かな国際感覚をもち、世界の人々とつながろうとする子どもの育成」
2 特別支援教育部の目標
児童一人ひとりが持つ課題を把握し、学び方や成長に応じた支援の方法を工夫し、社会生活に必要な自立と共生の力を育む。
3 特別支援教育部の経営方針
(1) 児童一人ひとりの実態を把握し、担任や保護者と連携しながら「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成する。
(2) 「個別の指導計画」に基づき、小集団での指導、学級担任と連携した在籍学級での指導等の形態を組み合わせる。
(3) 通級する児童が在籍学級での学習、生活を行えるよう学級担任との連携を強化する。



10 特色ある活動

まず、校外学習があります。これは、通常学級でも行っていますが、特別支援教室独自でも行っています。今年度は、イーストコーストパークやパシリスパーク、ボタニックガーデンの遊園地に行きました。他に、シメイ、ドビーゴート、チャイナタウンに買い物学習にも行きました。そして、子どもたちが1番喜んだのが3つのショーを見学したり、餌やり体験をしたりしたバードパークでした。これらの活動は、毎年度下見をして見直しています。今回は、ほとんどの場所が新たに開拓したものでした。日本と違うシンガポールの自然や景色を楽しんだり、バスやMRTの乗り方を学んだり、弁当ではなくフードセンターでチキンライスなど自分の好きなものを買って食べたりする活動は、社会性を育てる上でも大きな成果を上げています。

次に、料理活動があります。サンドイッチやお好み焼き、ホットケーキなどを作って、みんなで一緒にいただきました。ゆで卵の皮をむいたり、包丁でハムを切ったりと、友達と協力しながら料理をすることも子どもたちには大きな喜びです。材料を考えてお店に買い物に行ったり、出来たものを校長先生や担任の先生に食べてもらったりするのもうれしい活動になりました。他にも、季節の掲示物作成をして、子どもの日や七夕、クリスマスなどの文化を味わったり、水遊びの時には水泳に慣れ親しむような活動を取り入れたりしています。

最後に、年に3回、インドやマレーや中華の衣装を着る日があります。特別支援教室でも、海外ならではの活動や経験を大切に、子どもたちの成長を願っているのです。

11 まとめ

2年間は、5年生の担任でしたが、この最後の年に特別支援教育を担当し、いくらかでもその充実発展に貢献できたことは貴重な経験でしたし思い出になりました。それは、かわいい子どもたちや保護者の方の協力、そして教職員の支え合いがあったからです。まだ、中学部の特別支援教室設置への要望や、通常学級に在籍する特別支援が必要な子どもへの対応、そして定員をなくしたことによる編入学の増加など、これからも様々な課題がありますが、きっと残った先生方を中心により良い特別支援教育が展開されていくことと信じています。私自身も、この経験が日本で少しでも生かすことができたらと考えています。



シンガポール便り 251

2018年3月2日 三好 隆志

マクリッチトレイル

今回は、マクリッチ貯水池公園（MacRitchie Park）の周囲12kmほどをトレッキングしてきた様子を報告します。都心のオーチャードからたった数kmしか離れていませんが、熱帯ジャングルを味わえるコースです。シンガポール最大の貯水池（雨水集水システムの一部）を中心に、シンガポール島の中心部にあるこの公園と自然保護区は、自然愛好家に人気のスポットだそうです。そして、この貯水池は1867年に作られた歴史的なものだそうです。まず、最初の写真は公園の入口です。多くの方は、ここの入口にある駐車場に車を停めていました。その後、売店でお水を買ひ、ロッカールームに貴重品を預けて出発するようです。私は、ここで大きな失敗をしました。500ccのペットボトルを1本買ったのですが、2本必要だったのです。



さて、ここにやって来ている人たちの中には、トレッキング以外に貯水池で釣りを楽しんだり、カヤックやカヌーに乗ったりしている人たちもいました。シンガポールではエサ釣りが禁止されています。これは、水が汚れてしまうからだそうです。ルアーの場合はエサではないので問題ないそうです。また、入り口付近の近場だけでヨガやジョギングをしている人もいました。しかし、ほとんどの人たちは12kmのトレッキングへと向かうのでありました。



というわけで、500mほど歩くとジャングルの中のトレッキングの入口にやって来ます。ここから道しるべが「0」で始まっていました。ジャングルを進んでいくと、分かれ道には道しるべがちゃんとあります。半分近くの方は、汗びっしょりで走っていました。足元は平坦ではないですが、12kmですから、多分2時間くらいでは走り切るのではないのでしょうか。私は、歩いたので4時間もかかりました。



さて、目的の「Tree Top Walk」は5km 地点にあります。地図や案内板を見て進みました。途中でサルやリスに遭いました。また、写真のような巨大な竹もありました。アルマジロやハリネズミや鹿など、1000種類もの生き物が生息しているそうです。



やっと、守衛さんのいる小屋がありました。料金はかかりませんが、吊り橋は狭いため一方通行です。危険がないように見守っているのでしょう。この橋の高さは25m くらいで、長さは250m だそうです。下が透けて見えるし揺れるので、悲鳴を上げながら渡っている女性もいました。しかし、ジャングルの濃い緑と青空のコントラストがとても美しかったです。



帰りは、来た道を帰る人が多かったのですが、私は少し距離は長くなりますが、貯水池を1周するコースを選びました。途中で「Jelutong Tower」がありました。7つの階に分かれた塔で階段を昇り屋上に出ると、遠くまで見通せました。結構上り下りのある道を息を切らしながら歩いていると、ゴルフ場に出ました。もちろん、コース内には入れないような掲示板がありますが、柵がないため入って休憩用の椅子に座っている人もいました。



ちょうど運よく1mくらいの水オオトカゲがすぐ近くで魚を捕まえるのを見ることができました。また、シンガポールのことが好きになった1日になりました。



シンガポール便り 250

2018年2月28日 三好 隆志

Downtown Line3 出発進行！！

平成29年10月21日（土）、この日はMRT ダウンタウンライン3の運行開始日でした。そこで、21日（土）と22日（日）はオープン記念で、無料で延伸区間を乗ることができました。また、15日（土）は一般公開日となっていて、新しく開業した駅で様々なイベントが行われていました。

チャンギ校の子どもの中にも、これらのイベントに参加し、「もうダウンタウンライン3に乗ったよ」という人もいますかと思えます。電車が大好きな私も、15日の朝に並び、一番に電車に乗って、新しくできたすべての駅で降り、イベントに参加したり駅の中を探検したりしてきました！

駅は途中の経由地の一つ。駅が「目的地」の人はあまりいませんから、駅の中をゆっくり見ることはなかなかないかもしれませんね。今回は、新しく開業されたダウンタウンライン3の駅の魅力をお伝えします。ぜひ、どこの駅か探してみてくださいね！

Downtown Line3は

Fort Canning から → → → → → → → → Expo まで



駅には、カラフルで魅力的な芸術作品がいっぱいあるよ！



<ちょっと豆知識>

MRTの駅には、右の写真のような扉があり、緊急時に人々を守る「市民防衛シェルター」として機能するように設計されているそうです。ダウンタウンライン15の駅を含む地下鉄MRTの駅48か所に、このようなシェルターがあり、中には発電機を備えた電源システムや、水貯蔵タンクを備えた給水システム、汚染除去設備、トイレなどが備えられているようです。



シンガポール便り 249

2018年2月26日 三好 隆志

ウビン島

5年生の校外学習で何回も訪れていたウビン島ですが、今回はプライベートで出かけてみました。ウビン島を訪れる人は、都会ではない熱帯の自然を味わいたい人、マウンティンバイクでサイクリングをしたい人、そして釣りをしたい人に分かれます。ローカルのサイクリング好きな人たちは、船に愛車を持ち込んでいました。私は、5軒くらいあるレンタサイクルの店で、1日8ドルで借りました。愛車の人たちは、帰る時に3ドルで洗車をしていました。走っていると、危ないヤシの実が落ちてきました。上を見るとサルの群れがいました。

さて、ウビン島は以前花崗岩が取れにぎわっていた時期があったわけですが、現在は観光と養殖で50人くらいだけが暮らしているようです。右の建物は、1930年にイギリス人が別荘として使っていたチューダー様式の洋館です。2006年にリフォームしてビジターセンターにしていました。今回は、特にウビン島の東側にある「チェック・ジャワ」に行きました。船着き場から自転車で30分くらいの距離で、到着したら徒歩で1kmくらいの遊歩道を歩きました。海の上の遊歩道やマングローブの林を歩くことができ、ジャングルの中にはジェラウイ・タワーという展望台もありました。海の向こう側にはシンガポールの街並みやマレーシアまでが一望できました。また、今回も

サルだけでなくイノシシにも遭遇しました。帰る前には、港の近くのレストランで、新鮮なシーフードを食べることができました。



シンガポール便り 248

2018年2月22日 三好 隆志

1 貸し菜園

日本では市民農園などとしてお馴染みの貸し農園ですが、シンガポール国立公園管理局(NPB)は、園芸・造園を通じて緑化を推進するガーデニング・マスタープラン(基本計画)を発表し、貸し農園の計画を初めて打ち出しています。利用料は、年間約1坪が5000円ほどです。利用期間は、最長3年間です。培養土や水は無料で提供されるため、利用者は種や苗、園芸道具を持参すれば気軽にガーデニングができます。2019年までに、シンガポール国内のクレメンティやブンゴル、アンモキオなどの校外地区10カ所の公園内で運用を始めるそうです。



2 シンガポール大学

シンガポール大学は、大変広いキャンパスをもっています。3つのキャンパスに分かれていて日本人学校クレメンティ校の隣 Kent Ridge Campus、私が良くいくボタニックガーデンの隣 Bukit Timah Campus と Outram Campus です。Kent Ridge キャンパスがメインで、あと2つは、離れ小島のような存在です。そして、合計面積は150haもあるそうです。何と東京ドーム30個分です。ちなみに私の故郷岡山大学津島キャンパスは、もともと陸軍の練兵場だったので広大で有名ですが、それでも80haしかありません。校内は、一般の人も乗れる大学専用の無料バスが走っていました。そして、驚くのが学生食堂です。岡山大学では、2カ所にあったと思いますが、シンガポール大学には全部で6カ所にあるようです。工学部「Technoedge」理学部「Frontier」文学部「The Deck」経営学部「Terrace」学生会館「Yusof Ishak House (YIH)」学生寮 Prince George's Residences 「Foodglehub」です。値段は、一般のフードセンターよりも安くてほしい200円くらいで食べることができます。ただ、学生寮以外は、日曜日はお休みです。そして、シンガポール式の一般のフードコートとは違い、食べたトレイは自分で片付ける必要があります。



3 医療費



日本人学校の文部科学省派遣教員は、全員日本で保険に加入して来ています。私も、月1万円ほどの掛け金を天引きされています。これは、後で7割が返金されるシステムです。それで、都道府県の健康保険もあるため、ほぼ自己負担はなくなるはずなのです。しかし、実際には予定の半分も返ってこないことがあります。それは、日本国内で同じ病気やけがをした場合の治療費をもとにしているからです。だから、私は海外キャッシュレス保険に個人で加入しています。これだと、日本系の大きな病院では全て無料で診てもらえることが出来るから安心です。

シンガポール便り 247

2018年2月20日 三好 隆志

ヤクルト工場

シンガポール日本人学校の3年生は、クレメンティ校ではキッコーマン工場、チャンギ校ではヤクルト工場に社会科見学に行きます。場所は、マレーシア国境にほど近いシンガポール北部のセノコ工業団地です。コンテナを積んだたくさんのトラックが出入りする一角に工場があります。ヤクルトは、1978年にシンガポールに進出し、1992年にこのセノコ工業団地に移転してきました。工場は、できて26年目ですが、リノベーションを実施したばかりで大変きれいでした。

まず、60人ほどが入れる会議室で、ヤクルトを世界中の人に飲んでもらうための工夫や、工場で安全な食品を製造するための努力などについて学びました。ヤクルトは、現在37カ国と地域で一日3000万本も売れているのだそうです。販売方法も独特で、シンガポールでもヤクルトレディがいて、量販店経由より日本同様の販売を重視しているそうです。これは、ヤクルトの商品の効能を消費者に丁寧に伝えるためにも有効だそうです。ところで、日本ではお馴染みの容器ですが、そのサイズは国によって異なるようです。オーストラリア、欧州、インド、インドネシアでは、65 ml のボトル。北米、南米、日本、フィリピン、韓国では、80 ml のボトルで売られています。そして、ヤクルトの最大販売市場の1つであるメキシコや、タイ、シンガポール、台湾、中国、米国、香港では、100 ml のボトルなのです。できたてのヤクルトを1本ずつ飲みながら説明を聞いたり質問に答えてもらったりした後は、工場内を見学して回りました。ヤクルト菌を培養させる場所、スキムミルクと攪拌する場所、発酵させる場所、ブドウ糖を混ぜる場所、フルーツ味をミックスする場所、など沢山のタンクが並んでいました。ここシンガポールの工場では、1日30万~35万本のヤクルトが生産されているそうです。実はシンガポールでは、オリジナルの味だけでなく、ぶどう味、オレンジ味、リンゴ味もパックされています。オリジナル×2、グレープ、オレンジ、メロンの5本入りで、お値段は、100 ml×5本約240円です。本当は、1週間毎日飲んでもらえるように7本パックにしたかったそうですが、大きくなり過ぎるから5本のパックで販売しているということでした。フルーツ味のヤクルトは、シンガポールだけで販売されているということなので、ぜひ飲んでみたいと思います。この後は、品質管理室も見学しました。何人かの女性がヤクルト製品などの検査をしていました。色は濃くないか、味は酸っぱくないかなど、5感を使って調べるそうです。ヤクルト菌も見たり匂ったり



させてもらいました。とても酸っぱい匂いがしました。だから砂糖を加えるわけですね。それから、容器を作る機械や、ヤクルトを注入したりパック詰めをしたりする流れ作業を見学しました。月に2度しかない、ブルネイ王国向けのダンボール箱詰め作業も見ることができました。さて、最後は質問の答えです。

「容器の形は、ロケットみたいで格好いいということで決まったようです。」

「シンガポールにフルーツ味があるのは、色々な国の人がいるからその人たちの意見から天然のフルーツ味を導入しました。」

「このヤクルト工場には、日本人が7人います。働いている人は、工場作業員が50人、売る人が100人、事務員が10人、ヤクルトレディは350人います。」

「ヤクルトができたきっかけは、腸の中に良い乳酸菌を入れてあげるためです。腸の中には、100兆もの菌がいて、その中で悪い菌と良い菌が戦っています。悪い菌が勝ってしまうと病気になってしまいます。そこで、1本で100億個もの良い菌をもつヤクルトを飲むことで、良い菌の応援をしてあげられるわけです。」

「ヤクルトという言葉は、エスペラント語でヨーグルトの意味です。エスペラント語というのは、130年前にポーランド人が世界の共通語にしようと考え出したものです。現在もフィンランド、オランダ、スウェーデン、デンマークなどで150万人の人が使用している言葉です。」

「シンガポールでは、6月の夏休みや12月の冬休みに海外旅行する家庭が多いため、売り上げが減少します。その時には、残業がなくなったり、機械のメンテナンスをしたりします。日本では、暑い時の方が良く売れて、冬場は売り上げが減少します。」



シンガポール便り 246

2018年2月19日 三好 隆志

1 マラソン

シンガポール日本人学校では、子どもたちの体力づくりとして年度の前半はなわとびに取り組み、後半はマラソンに取り組んでいます。低中高の学年に分け、曜日を決めて始業前の15分間くらい運動場を走ります。また、中休みや昼休みの終わり数分間でも音楽をかけて走る時間に行っています。約200mのコースを100周すると、シンガポール地図に書かれたコースのポイントに色を塗ることができ、国土1周となります。本当は、20kmでは1周しませんから、高学年などはカードを数枚やり遂げたら実際の距離になるわけです。子どもたちはバス通学で、マンションのプールで泳ぐことはできますが、外遊びが足りなくて持久力が今一つの実態があります。ですから、この取り組みによる成果が体力テストに表れるか期待しています。

2 不動産価格

よくマンションのチラシがポストに入っています。我が家はクリアウォーターといいますが、だいたい同じ130平方メートルで1億円でした。もう18年もたっている中古マンションで都心から20kmも離れていてこんな価格なのですから、バブルと言えなくもないですね。

3 病院

シンガポールでは、医療水準は高いし数多くの日本人医師がいますので日本語で診療が受けられる病院がたくさんあります。

• JAPAN GREEN CLINIC

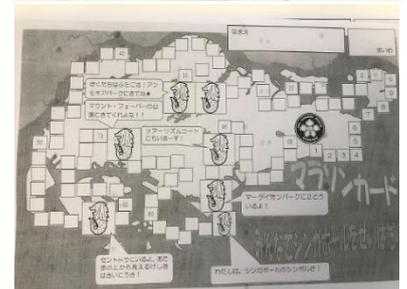
何と岡山の(財)倉敷成人病センターが運営する診療所です。1983年に開業、2000年に現在のオーチャード通りパラゴン10階に移転したこの病院は、シンガポールでは日本の病院として第一号だそうです。現在、日本人医師が8人、スタッフは20人もいて最も多く、診察室もたくさんありました。そういえば、1995年からジャカルタ日本人学校に赴任していたときに、インドネシアには日本の病院が無く、この病院まで国費で健康診断に来ていました。

• THE JAPANESE ASSOCIATION CLINIC

日本人会の中にある病院です。1985年に(財)海外邦人医療基金の事業の一つである海外医療拠点第一号として設立され、運営はシンガポール日本人会が行っています。日本の健康保険制度に基づいた料金設定で、営利を目的としていないので良心的です。

• RAFFLES JAPANESE CLINIC

ラaffles総合病院の11階にあり、2003年に開設した病院です。交通の便のいいブギスにあります。私も、マンションから一番近いので、風邪や腹痛などでよく利用しました。



We are serving clients looking to buy/rent a property along Bedok Reservoir Park. If you have a unit and are considering to sell or rent, kindly call us. We wish to be your real estate partner that fulfills your expectation.

Recent Transacted Price

Condominium	BRK	Type	Size	Price	Month
Archipelago	501	1BR	529 sqft	\$700,000	Aug-17
Archipelago	525	2BR	829 sqft	\$1,083,000	Sep-17
Aquarius by the Park	7	3BR	1,227 sqft	\$1,100,000	Aug-17
Aquarius by the Park	13	3BR	1,236 sqft	\$1,035,000	Sep-17
The Clearwater	8	3BR	1,453 sqft	\$1,220,000	Jul-17
The Clearwater	6	3BR	1,195 sqft	\$1,030,000	May-17

We are also marketing some properties at these areas, below are some of the units available. If you or your family are looking for a unit here, please call us for a viewing arrangement.

Aquarius by the Park
3BR 1205sqft #mid Pool view ask \$1,100,000

ジャパングリーンクリニック 医師のご紹介

Note: The Japanese doctors below are with conditional registration which restricts them to treating Japanese patients only. For the full registration, or of service to all nationalities as a General Practitioner, the specialist consultation fees, procedures, and registration will help you find the right doctor for you.

 小野 健二 医師 呼吸器科、内科、小児科、皮膚科、アレルギー科、泌尿器科、消化器科、外科	 小野 健二 医師 呼吸器科、内科、小児科、皮膚科、アレルギー科、泌尿器科、消化器科、外科	 小野 健二 医師 呼吸器科、内科、小児科、皮膚科、アレルギー科、泌尿器科、消化器科、外科
 小野 健二 医師 呼吸器科、内科、小児科、皮膚科、アレルギー科、泌尿器科、消化器科、外科	 小野 健二 医師 呼吸器科、内科、小児科、皮膚科、アレルギー科、泌尿器科、消化器科、外科	 小野 健二 医師 呼吸器科、内科、小児科、皮膚科、アレルギー科、泌尿器科、消化器科、外科
 小野 健二 医師 呼吸器科、内科、小児科、皮膚科、アレルギー科、泌尿器科、消化器科、外科	 小野 健二 医師 呼吸器科、内科、小児科、皮膚科、アレルギー科、泌尿器科、消化器科、外科	 小野 健二 医師 呼吸器科、内科、小児科、皮膚科、アレルギー科、泌尿器科、消化器科、外科

